

道東自動車道
下トマム地区下部工工事
トマム跨線橋（下り線）
下部工設計図

令和 8 年 5 月

東日本高速道路株式会社
北海道支社 帯広工事事務所

目 次

1. 数量総括表	1
2. 全体一般図（その 1 ～ 4）	2 ～ 5
3. 下部工座標図	6
4. P 1 橋脚構造一般図	7
5. P 1 橋脚配筋図（その 1 ～ 7）	8 ～ 14
6. P 2 橋脚構造一般図	15
7. P 2 橋脚配筋図（その 1 ～ 7）	16 ～ 22
8. P 3 橋脚構造一般図	23
9. P 3 橋脚配筋図（その 1 ～ 7）	24 ～ 30
10. P 3 橋脚土留工構造図（その 1 ～ 3）	31 ～ 33

下部工

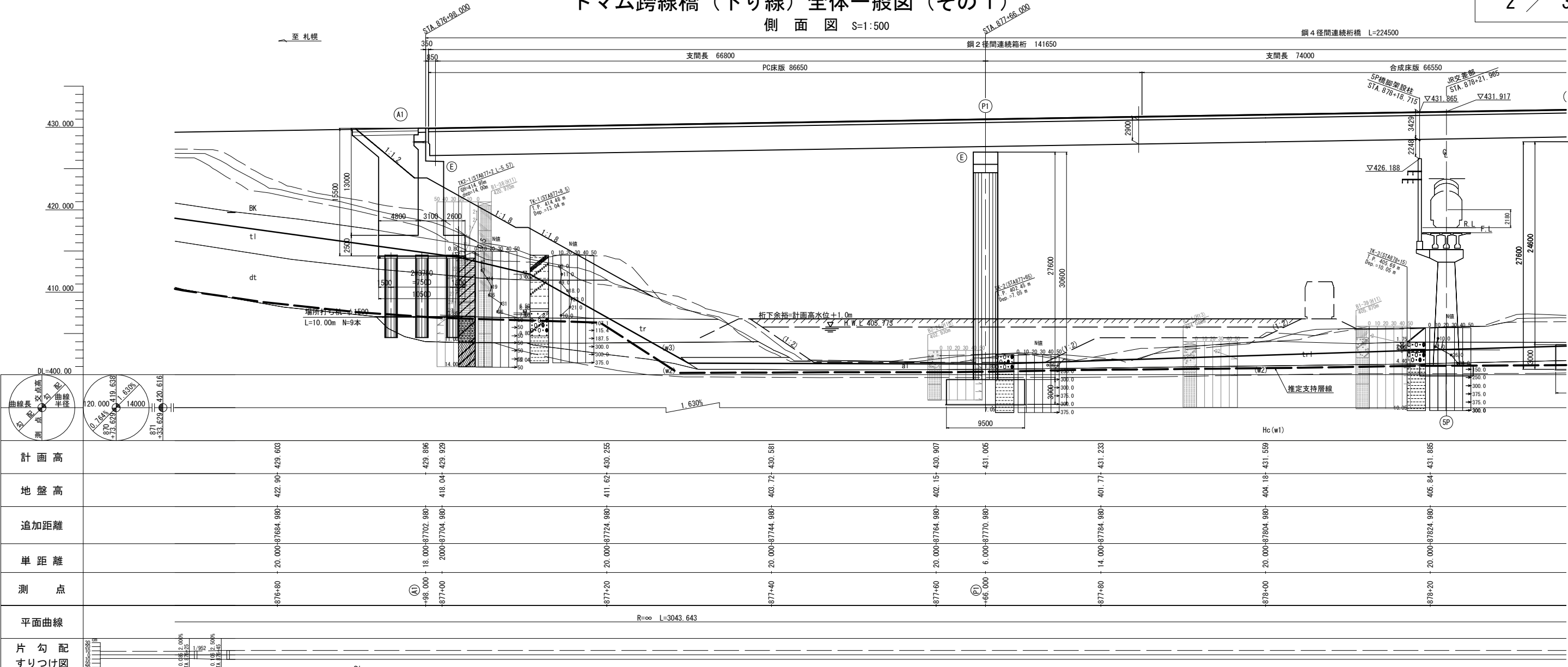
項 目	種 別		単位	P 1 橋脚	P 2 橋脚	P 3 橋脚	合計	摘 要
客土掘削	土砂 A 1		m3	1, 185. 5	1, 660. 8	1, 048. 8	3, 895. 1	
構造物掘削	普通部		m3	1, 772. 4	2, 017. 0	－	3, 789. 4	
	特殊部		m3	－	－	1, 379. 5	1, 379. 5	
コンクリート	A 1－3		m3	425. 9	382. 0	393. 6	1, 201. 5	σ ck=30N/mm2
	B 2－1		m3	356. 2	299. 3	270. 0	925. 5	σ ck=24N/mm2
	D 1－1		m3	12. 3	10. 4	9. 4	32. 1	σ ck=18N/mm2
型わく	C		m2	557. 9	502. 3	507. 8	1, 568. 0	
	D		m2	4. 5	4. 1	4. 1	12. 7	
鉄筋	A	D16～D25	t	19. 509	11. 486	12. 127	43. 122	25m以下, SD345, 普通鉄筋
		D29～D32	t	8. 265	5. 626	3. 336	17. 227	〃
		合 計	t	27. 774	17. 112	15. 463	60. 349	〃
	B	D29～D32	t	7. 105〔78〕	6. 280〔64〕	3. 371〔38〕	16. 756〔180〕	25m以下, SD345, 普通鉄筋
		D35	t	10. 928〔90〕	－	－	10. 928〔90〕	〃
		D38	t	－	8. 617〔66〕	7. 569〔56〕	16. 186〔122〕	〃
		合計	t	18. 033〔168〕	14. 897〔130〕	10. 940〔94〕	43. 870〔392〕	〃
	C	D13	t	0. 348〔116〕	0. 288〔96〕	0. 288〔96〕	0. 924〔308〕	25m以下, SD345, 普通鉄筋
		D16～D25	t	3. 665〔544〕	2. 364〔500〕	2. 421〔512〕	8. 450〔1556〕	〃
		合 計	t	4. 013〔660〕	2. 652〔596〕	2. 709〔608〕	9. 374〔1864〕	〃
	B（H）	D51	t	66. 300〔272〕	43. 219〔196〕	44. 479〔196〕	153. 998〔664〕	25m以下, SD490, 普通鉄筋
		合 計	t	66. 300〔272〕	43. 219〔196〕	44. 479〔196〕	153. 998〔664〕	〃

注1)〔 〕内は鉄筋の機械継手箇所数を示す。

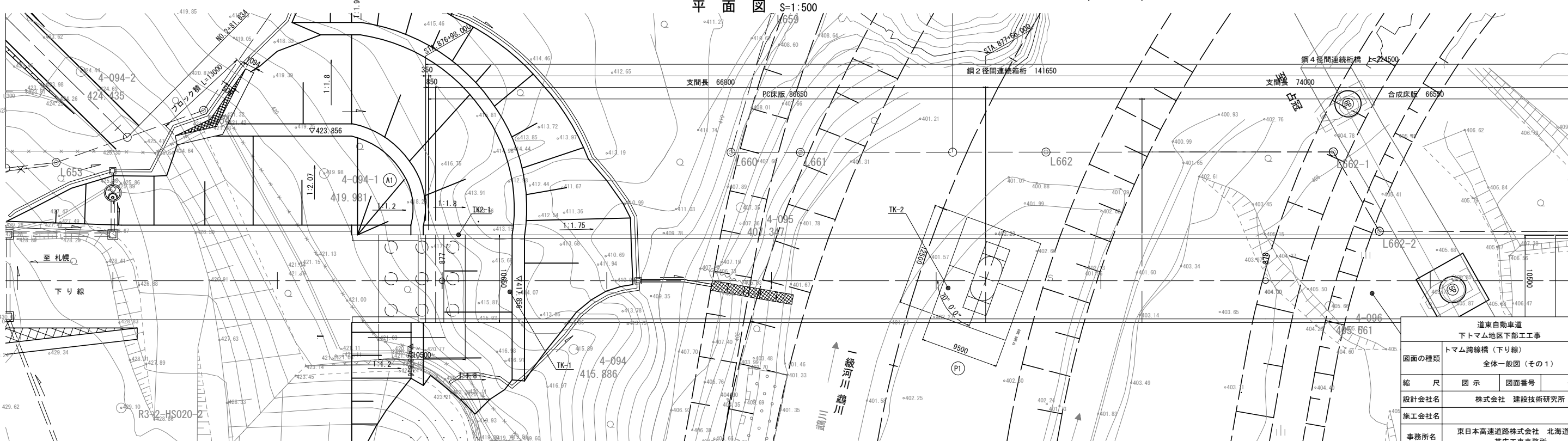
道東自動車道			
トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） 数量総括表		
縮 尺	図 示	図面番号	－
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

トマム跨線橋（下り線）全体一般図（その１）

側 面 図 S=1:500



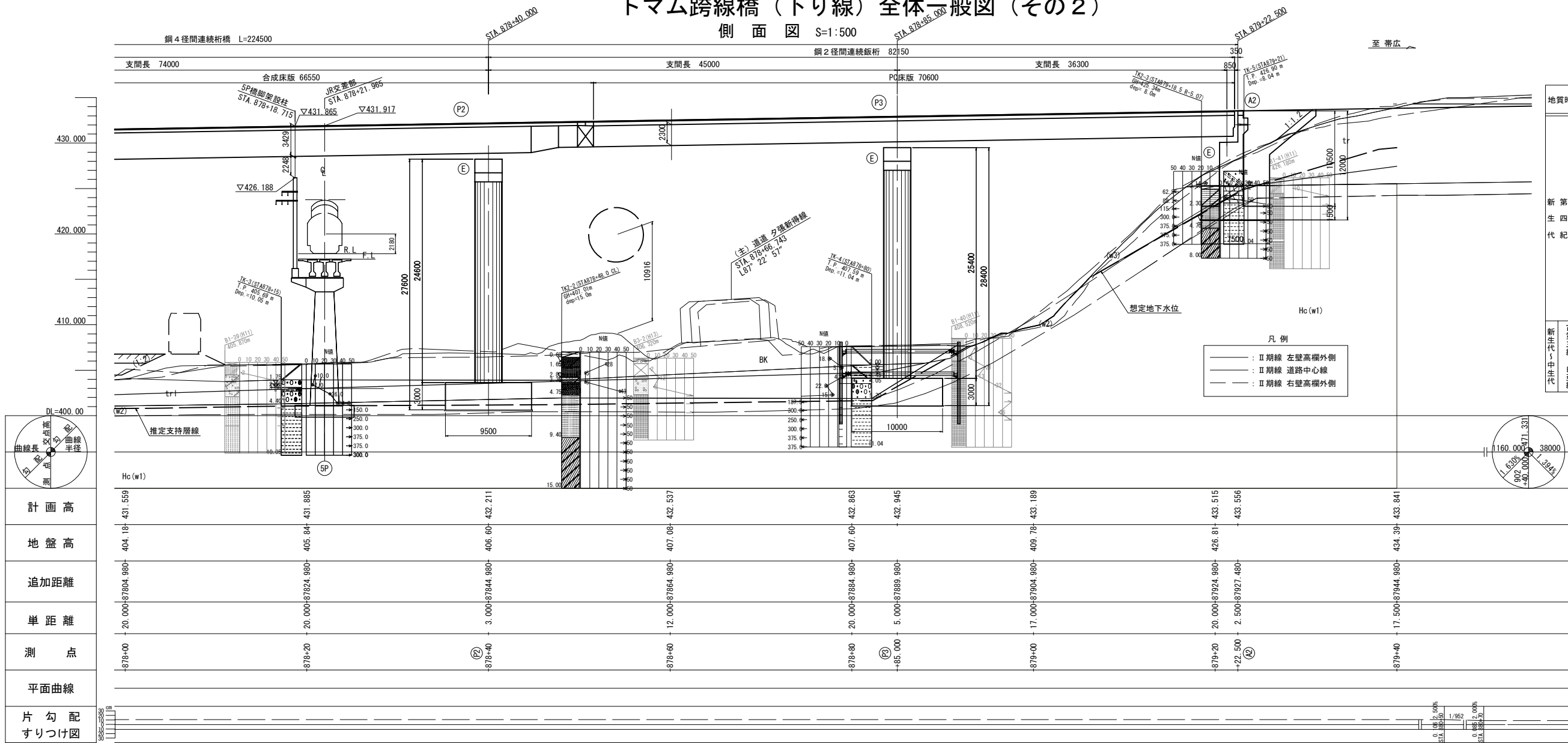
平面图 S=1:500



道東自動車道			
トマム地区下下部工工事			
図面の種類	トマム路線橋 (下り線) 全体一般図 (その 1)		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工場事務所		

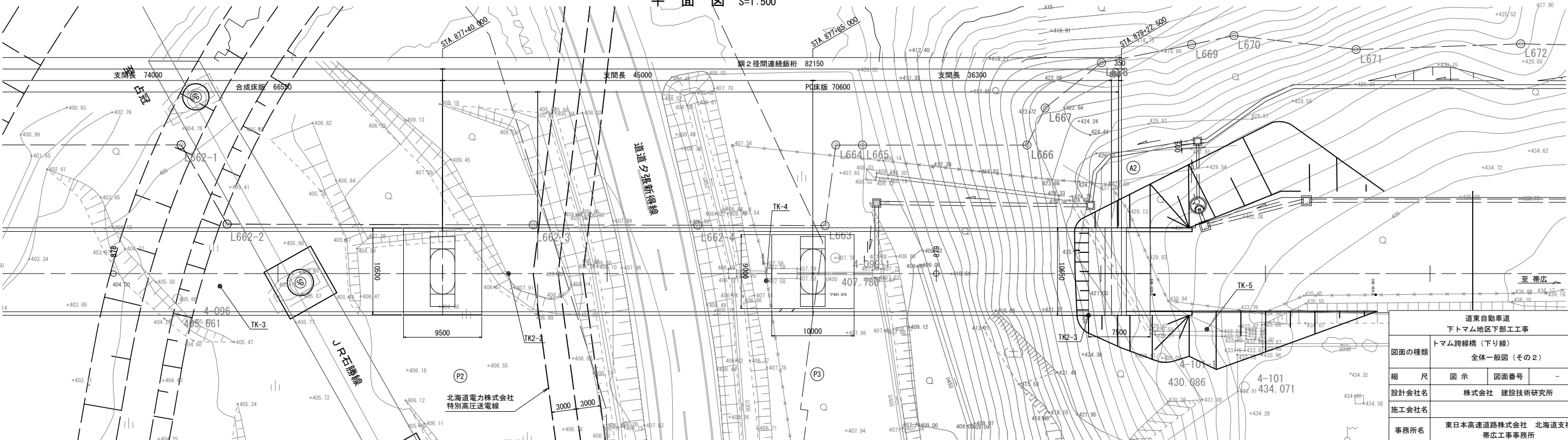
トマム跨線橋（下り線）全体一般図（その2）

側面図 S=1:500



地質構成一覧表			
地質時代	地質名	記号	地質構成
完新世	盛土	BK	礫・砂・粘性土
	現河床堆積物	al	円礫・砂
	氾濫原堆積物	tl	硬質土 礫混じり粘土
	低位（沖積） 段丘堆積物	trl	礫・砂・粘性土
	段丘堆積物	tr	礫・砂・粘性土
更新世	崖錐・ 山腹斜面堆積物	dt	角礫・蛇紋岩粘土
	古期扇状地堆積物	fd	角礫・砂・粘性土
新生代・中生代	日高累層群	Hc	混在岩

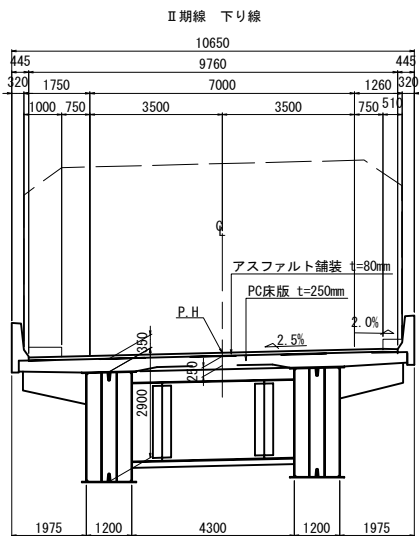
平面図 S=1:500



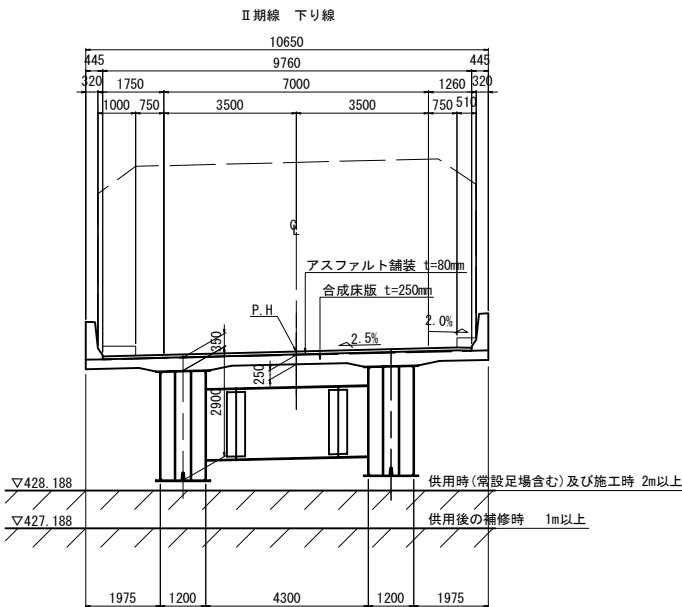
道東自動車道 下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） 全体一般図（その2）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 北海道支社		
事務所名	帯広工事事務所		

上部工断面図 S=1:200

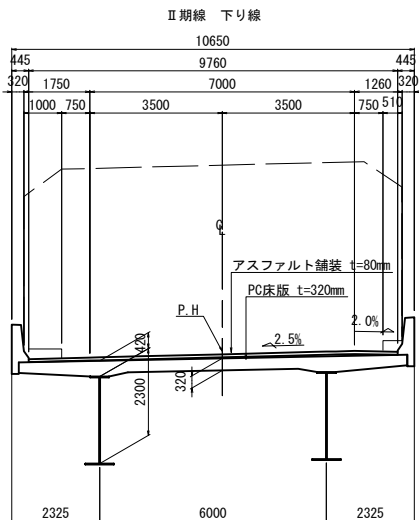
鋼 2 径間連続箱桁橋（PC床版）



鋼 2 径間連続箱桁橋（合成床版）



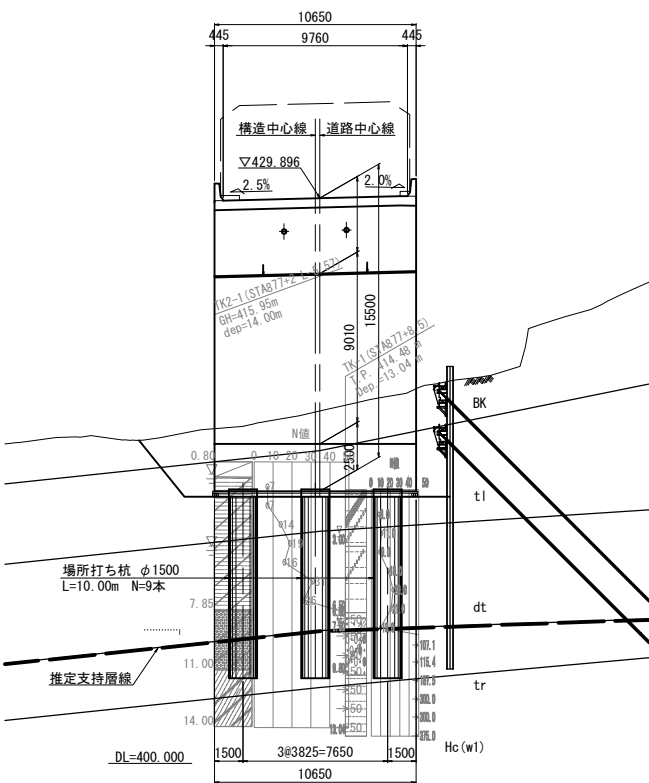
鋼 2 径間連続板桁橋



下部工正面図 S=1:400

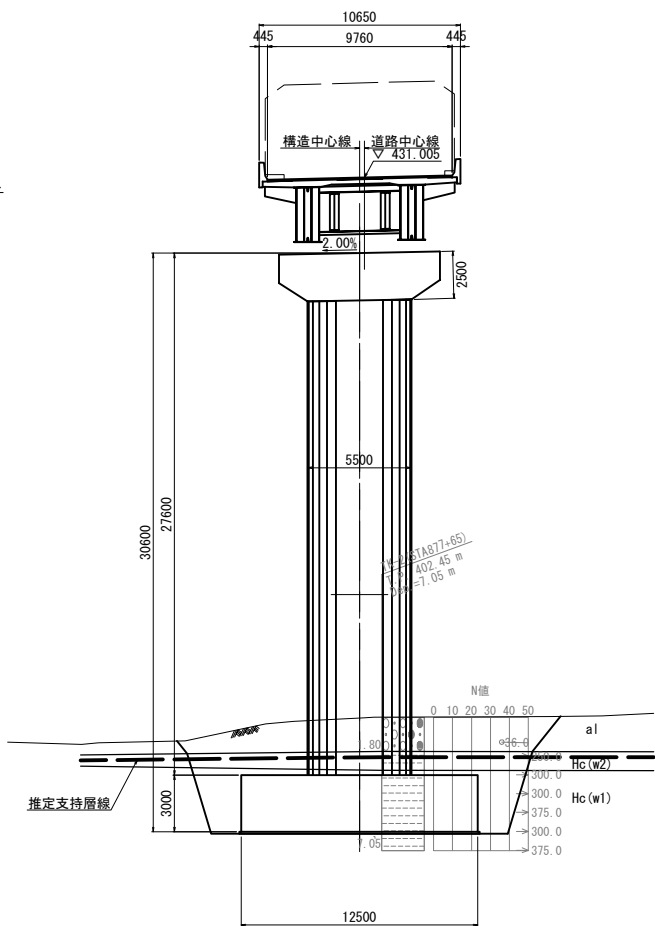
A1橋台

II 期線 下り線



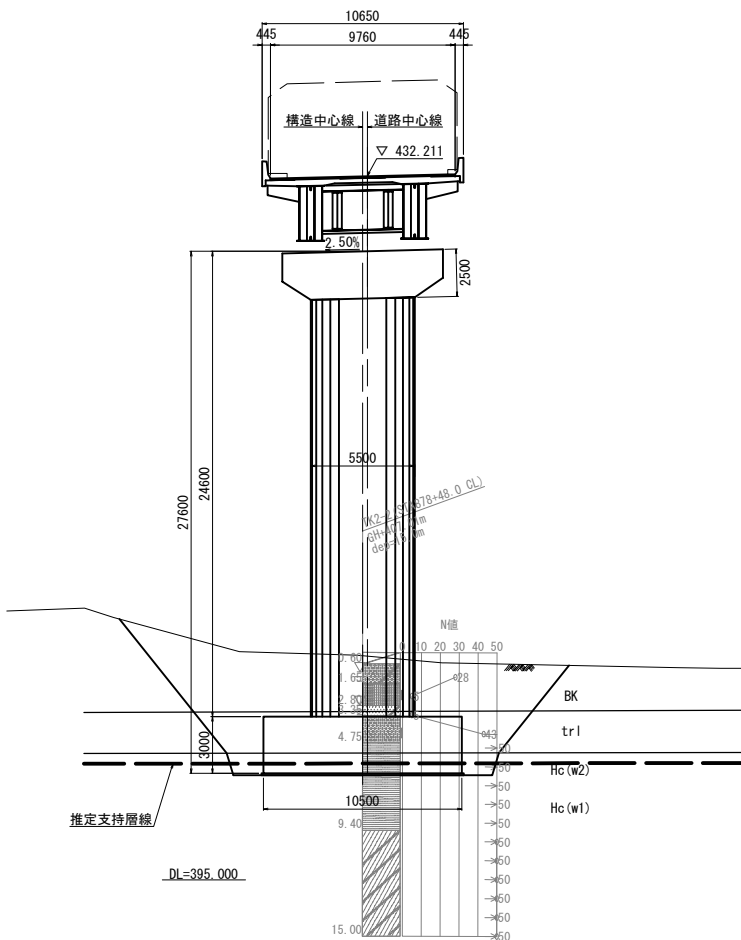
P1橋脚

II 期線 下り線



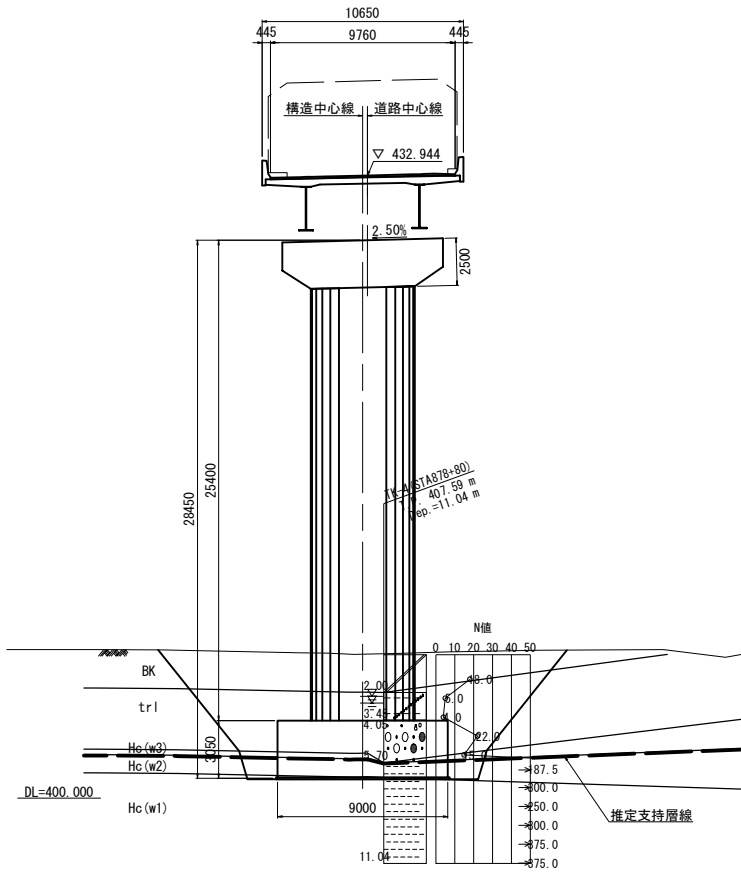
P2橋脚

II 期線 下り線



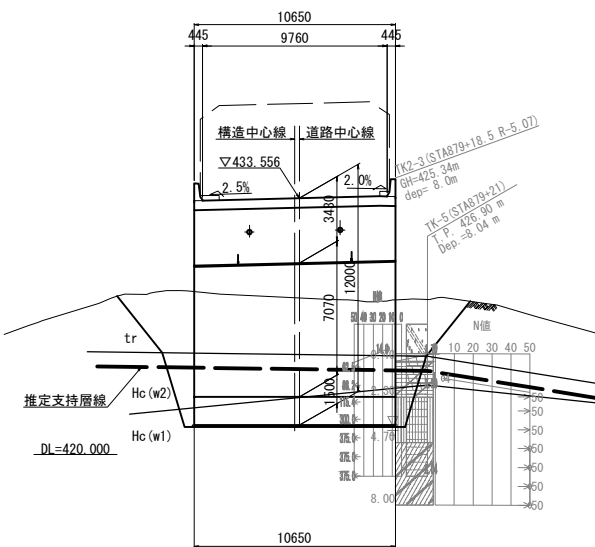
P3橋脚

II 期線 下り線

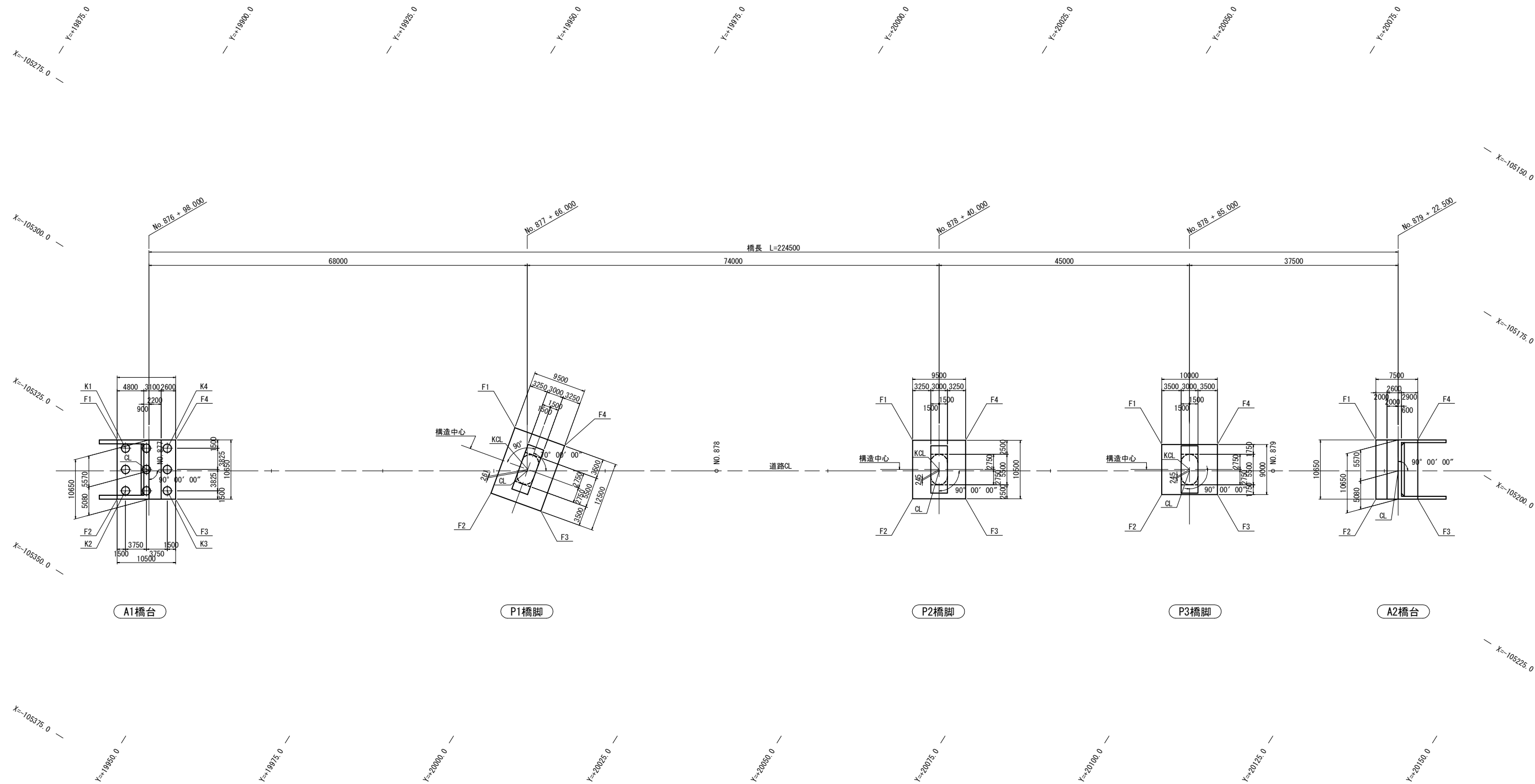


A2橋台

II 期線 下り線



道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） 全体一般図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



下部工座標値

(単位:m)

点名称	A1橋台	
	X座標	Y座標
道路中心	CL	-105326.0831 19928.3621
支承	G1	-105322.9064 19927.7981
	G2	-105327.5756 19930.7047
フーチング	F1	-105324.3668 19920.5795
	F2	-105333.4081 19926.2078
	F3	-105327.8591 19935.1218
	F4	-105318.8178 19929.4935
杭	K1	-105324.8475 19922.6457
	K2	-105331.3420 19926.6885
	K3	-105327.3784 19933.0556
	K4	-105320.8839 19929.0128

(単位:m)

点名称	P1橋脚	
	X座標	Y座標
道路中心	CL	-105290.1466 19986.0905
支承	G1	-105287.0279 19985.4332
	G2	-105292.7551 19986.6404
構造中心	KCL	-105289.8915 19986.0368
フーチング	F1	-105284.7556 19980.0998
	F2	-105296.9868 19982.6780
	F3	-105295.0274 19991.9737
	F4	-105282.7962 19989.3956

(単位:m)

点名称	P2橋脚	
	X座標	Y座標
道路中心	CL	-105251.0392 20048.9126
支承	G1	-105248.4967 20047.3298
	G2	-105253.1659 20050.2365
構造中心	KCL	-105250.8313 20048.7831
フーチング	F1	-105248.8846 20041.9761
	F2	-105257.7985 20047.5252
	F3	-105252.7780 20055.5902
	F4	-105243.8640 20050.0411

(単位:m)

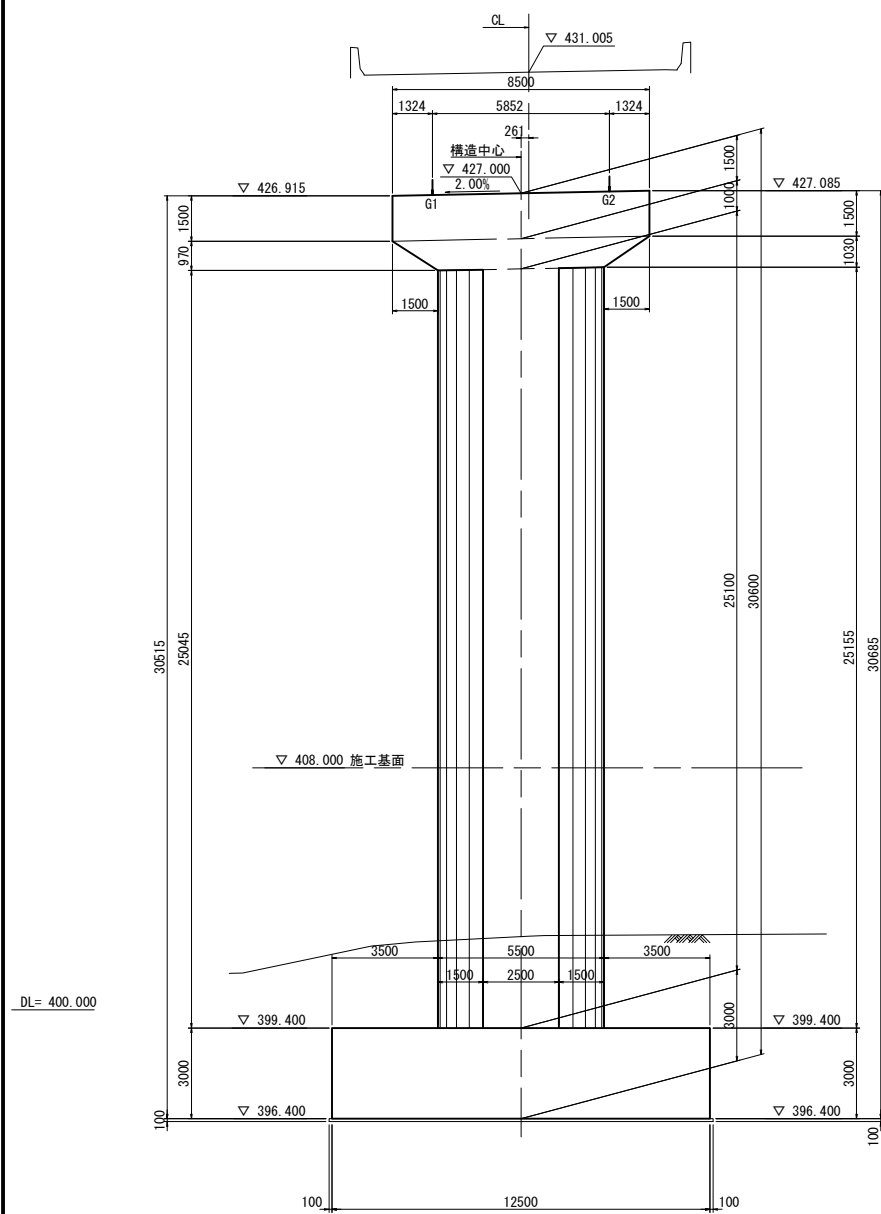
点名称	P3橋脚	
	X座標	Y座標
道路中心	CL	-105227.2577 20087.1152
支承	G1	-105224.5029 20085.4003
	G2	-105229.5966 20088.5712
構造中心	KCL	-105227.0497 20086.9858
フーチング	F1	-105225.8719 20080.3629
	F2	-105233.5124 20085.1192
	F3	-105228.2276 20093.6086
	F4	-105220.5871 20088.8523

(単位:m)

点名称	A2橋台	
	X座標	Y座標
道路中心	CL	-105207.4398 20118.9507
支承	G1	-105205.3192 20116.2171
	G2	-105210.4128 20119.3880
フーチング	F1	-105204.8251 20112.6113
	F2	-105213.8664 20118.2396
	F3	-105209.9028 20124.6067
	F4	-105200.8615 20118.9784

道東自動車道 下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） 下部工座標図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

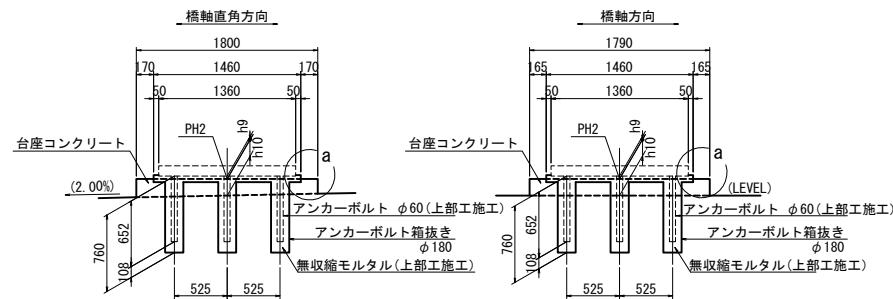
正面図



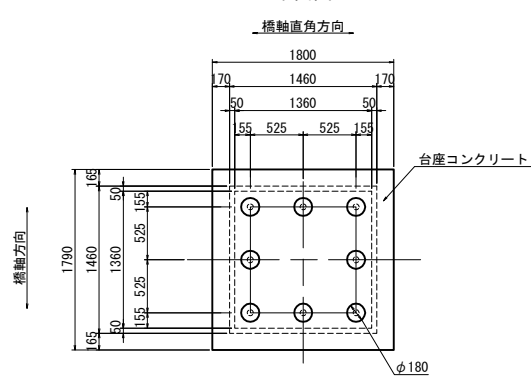
側面図



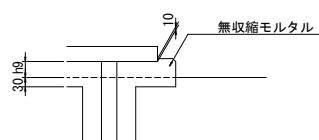
支承箱抜き詳細図 S=1:75
G1, G2



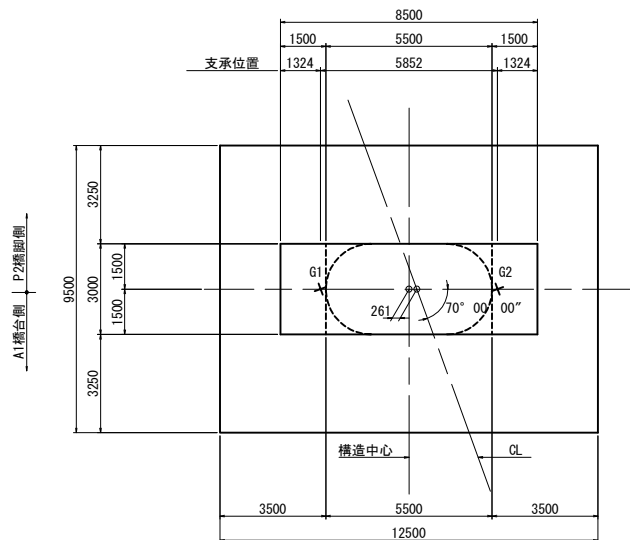
平面図



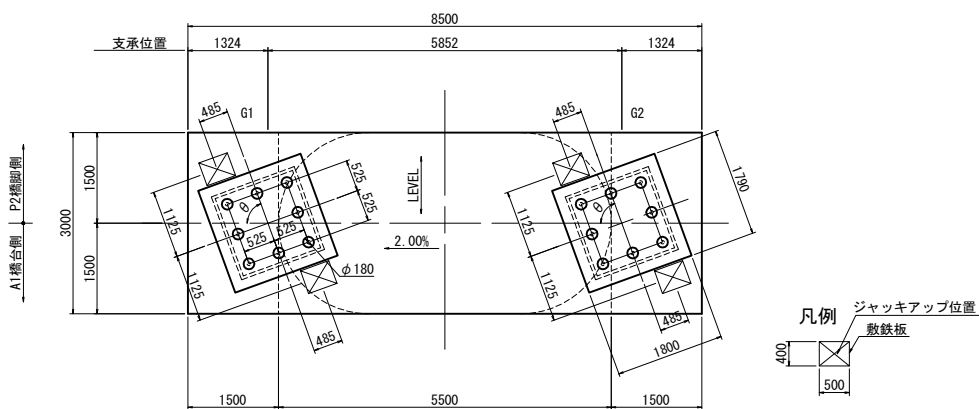
"a"部詳細図 S=1:25



平面図



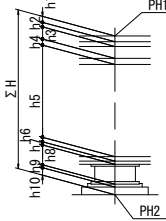
橋座平面図 S=1:125



構造高表

		(単位:m)	
		G1	G2
路面計画高	PH1	430.948	431.053
舗装厚	h1	0.080	0.080
調整コンクリート厚	h2	0.004	0.014
床版厚	h3	0.250	0.250
ハンチ高	h4	0.100	0.100
桁高	h5	2.900	2.900
下フランジ厚	h6	0.039	0.040
ソールプレート厚	h7	0.047	0.047
支承高	h8	0.393	0.393
調整モルタル厚	h9	0.030	0.030
台座高	h10	0.164	0.140
合計	ΣH	4.007	3.994
下部工天端標高	PH2	426.941	427.059
支承座標	X	-105287.0279	-105292.7551
	Y	19985.4332	19986.6404
支承設置角度	θ	70° 00' 00"	70° 00' 00"

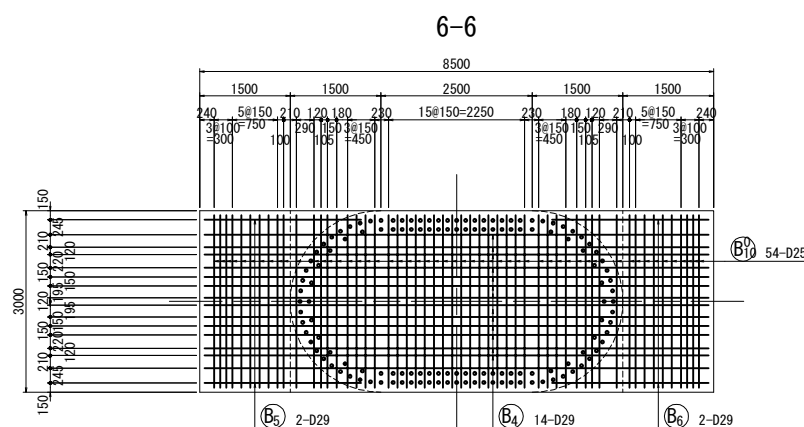
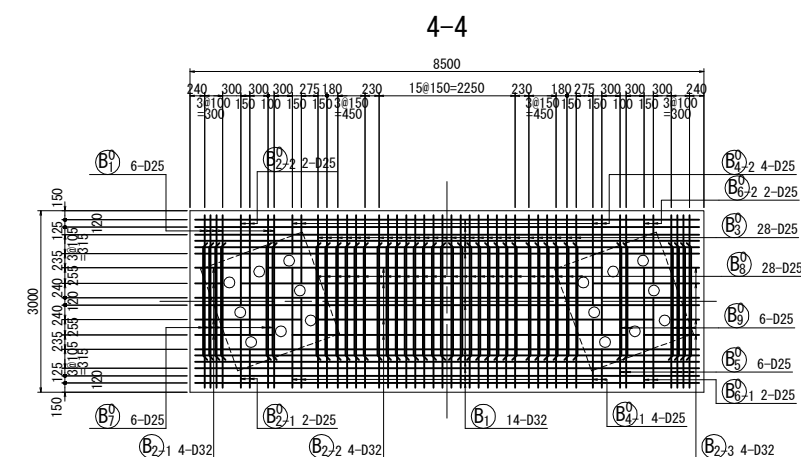
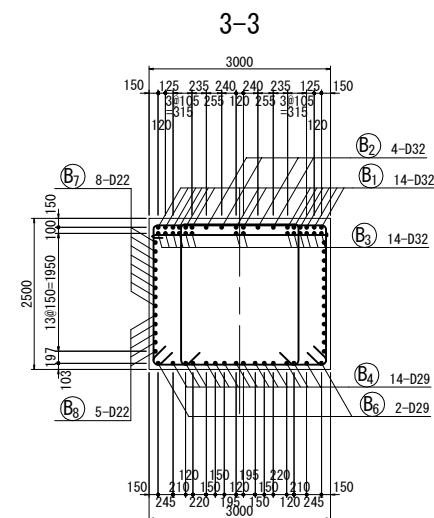
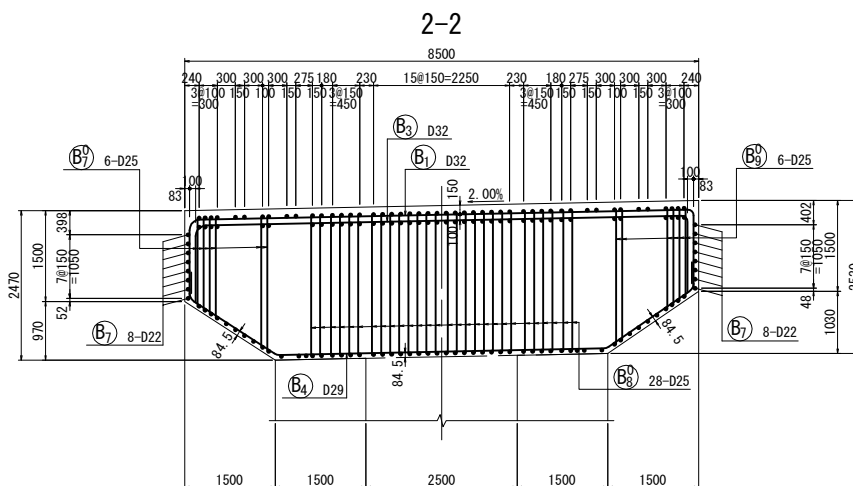
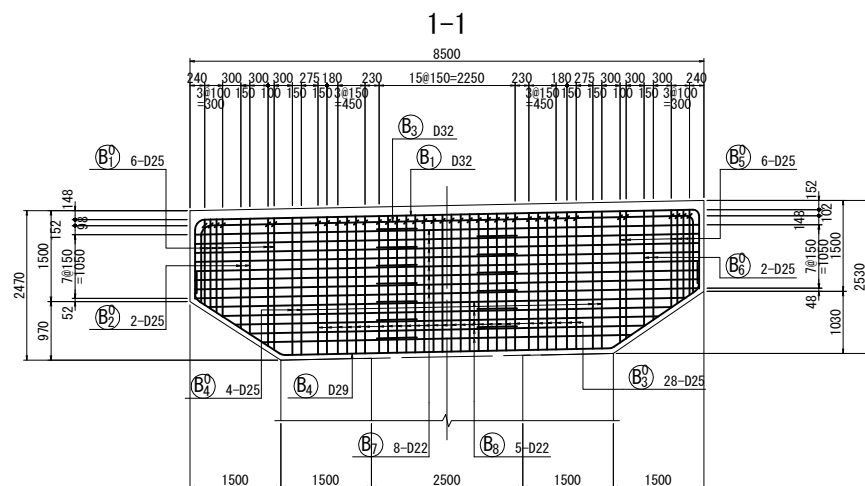
構造高図



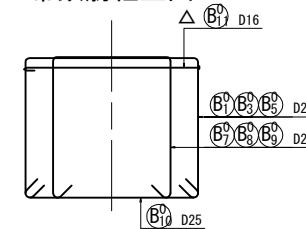
使用材料一覧表

使用区分	コンクリート設計基準強度	鉄筋種別
躯体	$\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$	SD490, SD345
フーチング	$\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$	SD345
均しコンクリート	$\sigma_{ck} = 18 \text{ N/mm}^2$	—

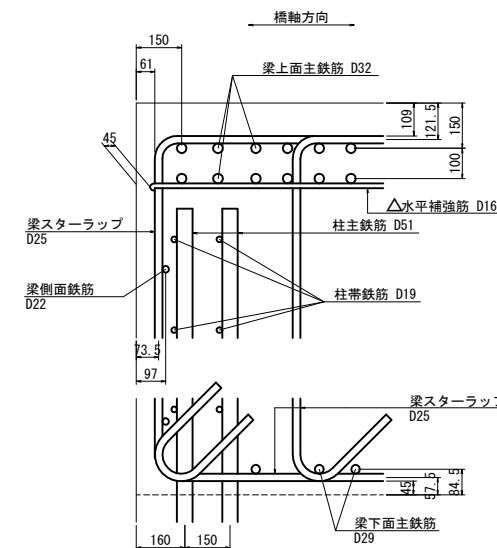
道東自動車道 下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 1 橋脚構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



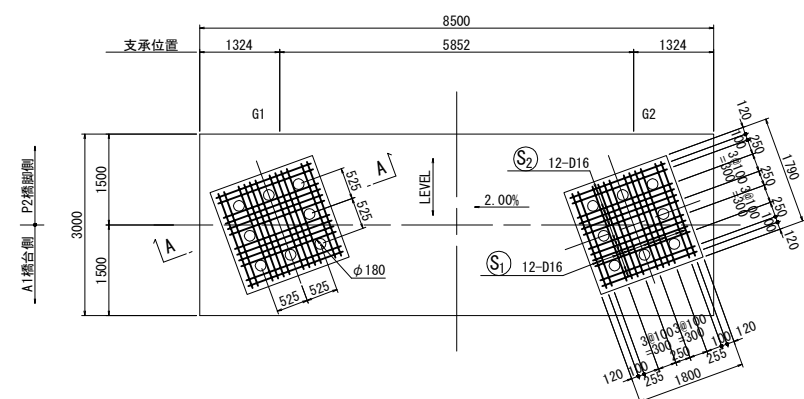
帯鉄筋組立図



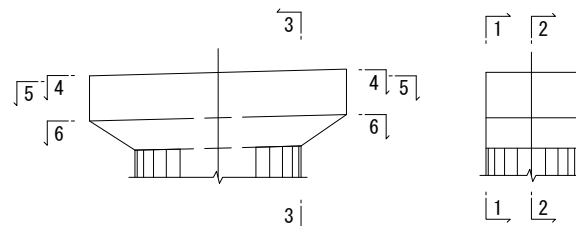
かぶり詳細図 S=1:25



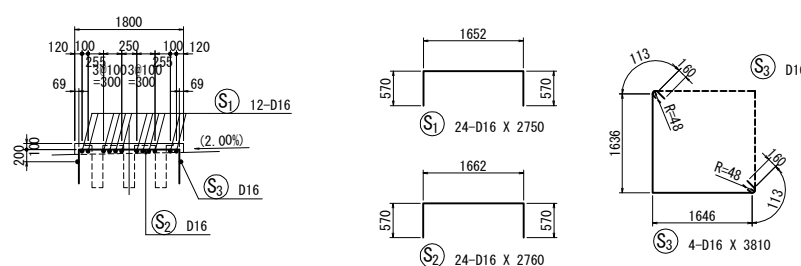
台座コンクリート配筋図



位置図

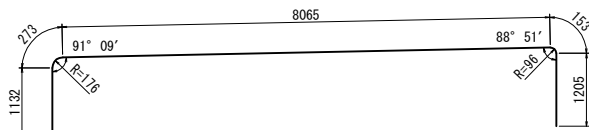


A-A

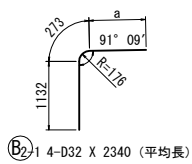


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(R7. 10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注3) ◇鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
- 注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

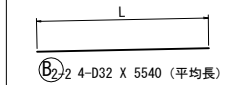


Ⓑ₁ 14-D32 X 10830



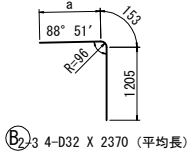
Ⓑ₂₋₁ 4-D32 X 2340（平均長）

記号	径	本数	a	L
B 2-1-1	D32	1	735	2140
-2	"	1	285	1690
-3	"	1	1585	2990
-4	"	1	1135	2540
平均長		4		2340



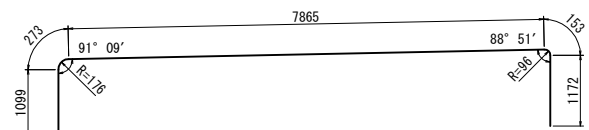
Ⓑ₂₋₂ 4-D32 X 5540（平均長）

記号	径	本数	L
B 2-2-1	D32	2	5521
-2	"	2	5546
平均長		4	5540

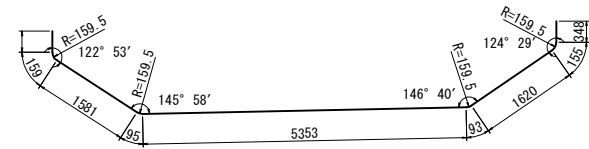


Ⓑ₂₋₃ 4-D32 X 2370（平均長）

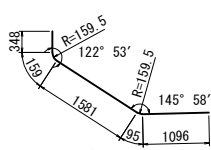
記号	径	本数	a	L
B 2-3-1	D32	1	1209	2570
-2	"	1	1659	3020
-3	"	1	359	1720
-4	"	1	809	2170
平均長		4		2370



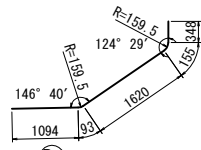
Ⓑ₃ 14-D32 X 10570



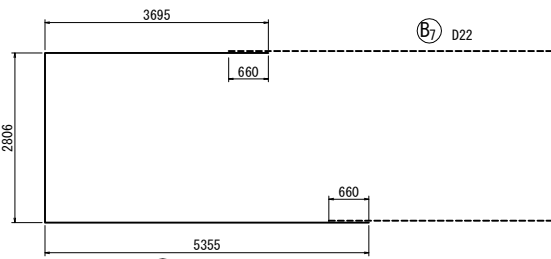
Ⓑ₄ 14-D29 X 9760



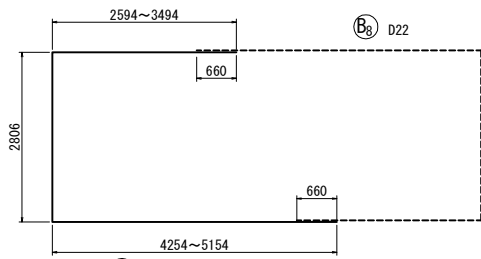
Ⓑ₅ 2-D29 X 3280



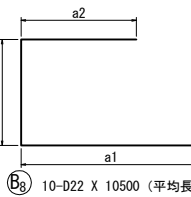
Ⓑ₆ 2-D29 X 3310



Ⓑ₇ 16-D22 X 11800

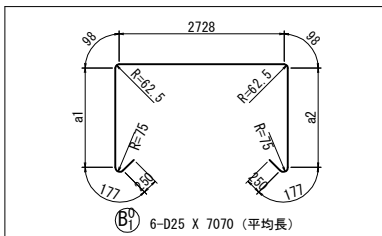


Ⓑ₈ 10-D22 X 10500（平均長）



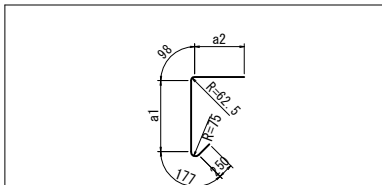
Ⓑ₉ 10-D22 X 10500（平均長）

記号	径	本数	a1	a2	L
B 8-1	D22	2	4254	2594	9600
-2	"	2	4479	2819	10050
-3	"	2	4704	3044	10500
-4	"	2	4929	3269	10950
-5	"	2	5154	3494	11400
平均長		10			10500



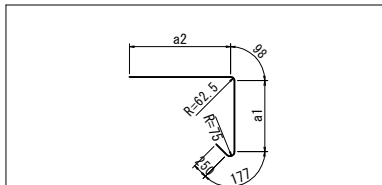
Ⓑ₉ 6-D25 X 7070（平均長）

記号	径	本数	a1	a2	L
B 9-1	D25	1	1333	1333	6450
-2	"	1	1399	1399	6580
-3	"	1	1466	1466	6710
-4	"	1	1533	1533	6850
-5	"	1	2033	2033	7850
-6	"	1	2099	2099	7980
平均長		6			7070



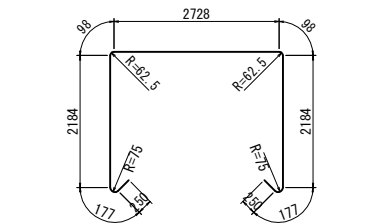
Ⓑ₉₋₁ 2-D25 X 3140（平均長）

記号	径	本数	a1	a2	L
B 9-1-1	D25	1	1733	1064	3330
-2	"	1	1833	574	2940
平均長		2			3140

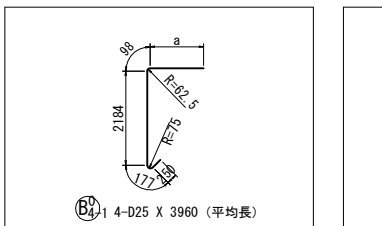


Ⓑ₉₋₂ 2-D25 X 3990（平均長）

記号	径	本数	a1	a2	L
B 9-2-1	D25	1	1733	1424	3690
-2	"	1	1833	1919	4280
平均長		2			3990

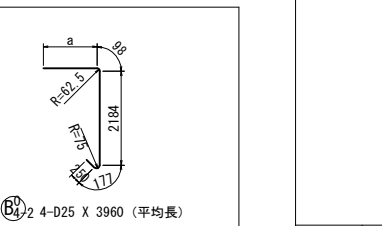


Ⓑ₉₋₃ 28-D25 X 8150



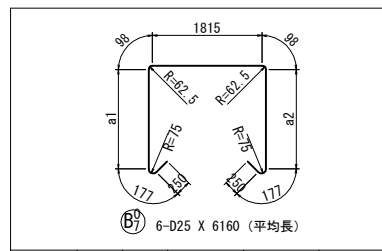
Ⓑ₉₋₄ 1 4-D25 X 3960（平均長）

記号	径	本数	a	L
B 9-4-1	D25	1	574	3290
-2	"	1	1064	3780
-3	"	1	1424	4140
-4	"	1	1919	4630
平均長		4		3960



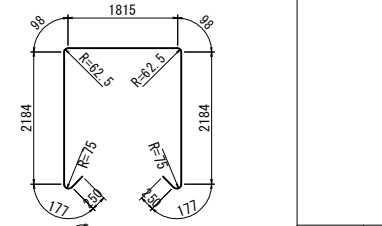
Ⓑ₉₋₅ 2 4-D25 X 3960（平均長）

記号	径	本数	a	L
B 9-5-1	D25	1	574	3290
-2	"	1	1064	3780
-3	"	1	1424	4140
-4	"	1	1919	4630
平均長		4		3960

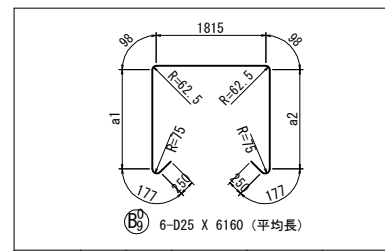


Ⓑ₉₋₆ 6-D25 X 6160（平均長）

記号	径	本数	a1	a2	L
B 9-6-1	D25	1	1333	1333	5540
-2	"	1	1399	1399	5670
-3	"	1	1466	1466	5800
-4	"	1	1533	1533	5940
-5	"	1	2033	2033	6940
-6	"	1	2099	2099	7070
平均長		6			6160



Ⓑ₉₋₇ 28-D25 X 7240



Ⓑ₉₋₈ 6-D25 X 6160（平均長）

記号	径	本数	a1	a2	L
B 9-8-1	D25	1	1331	1331	5530
-2	"	1	1398	1398	5670
-3	"	1	1465	1465	5800
-4	"	1	1531	1531	5930
-5	"	1	2031	2031	6930
-6	"	1	2098	2098	7070
平均長		6			6160

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋式方書-同解説(R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注3) ◇鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

* 半円形フックを千鳥に配置すること。

道東自動車道				
下トマム地区下部工工事				
図面の種類		トマム跨線橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 建設技術研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			



注1) ①表示は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。

1、道路橋示方書—同解説(R7.10 日本道路協会)

2、機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

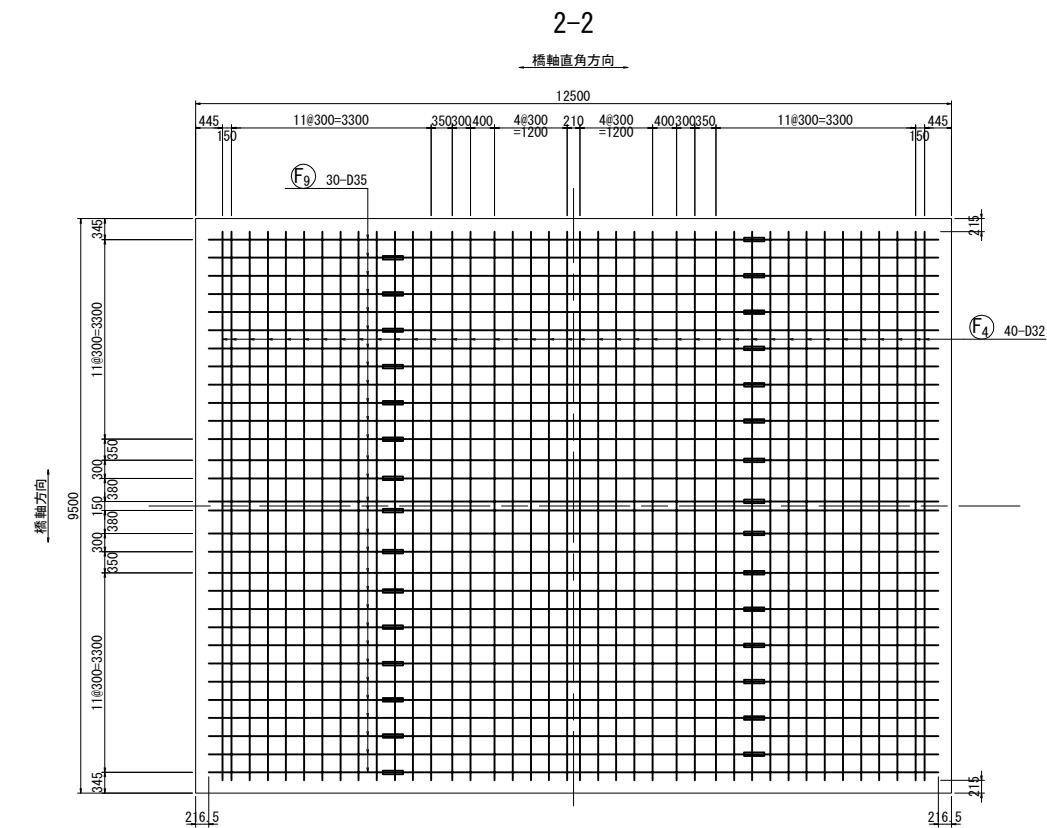
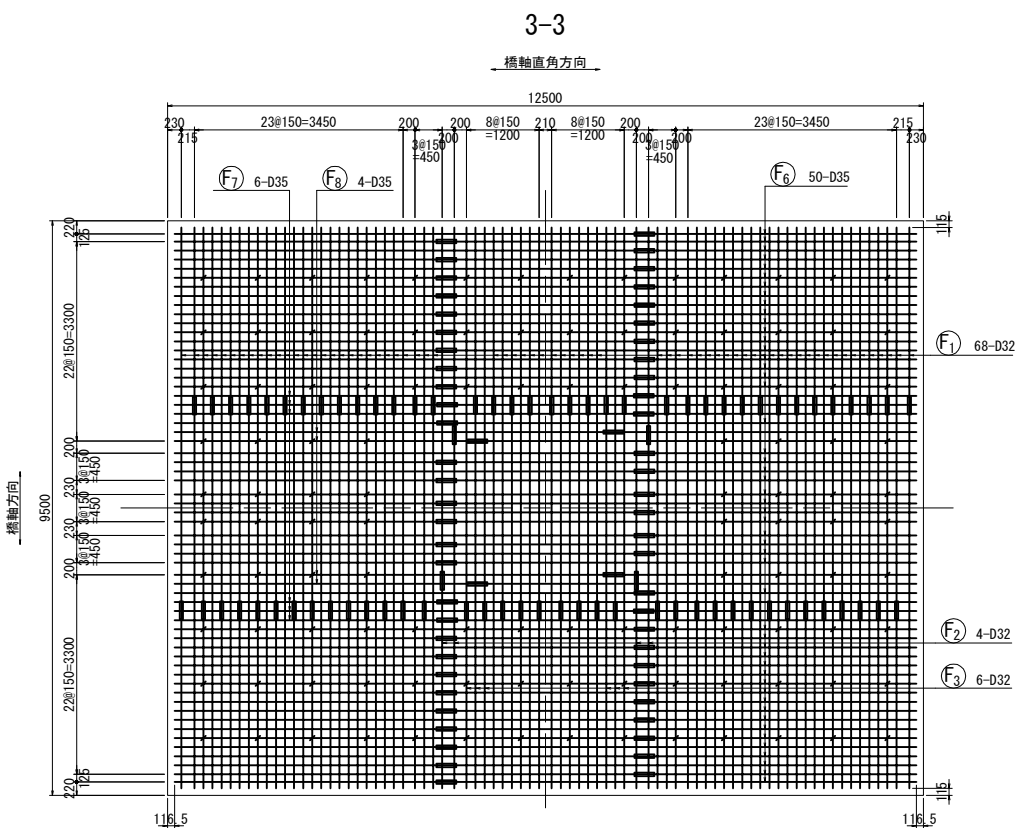
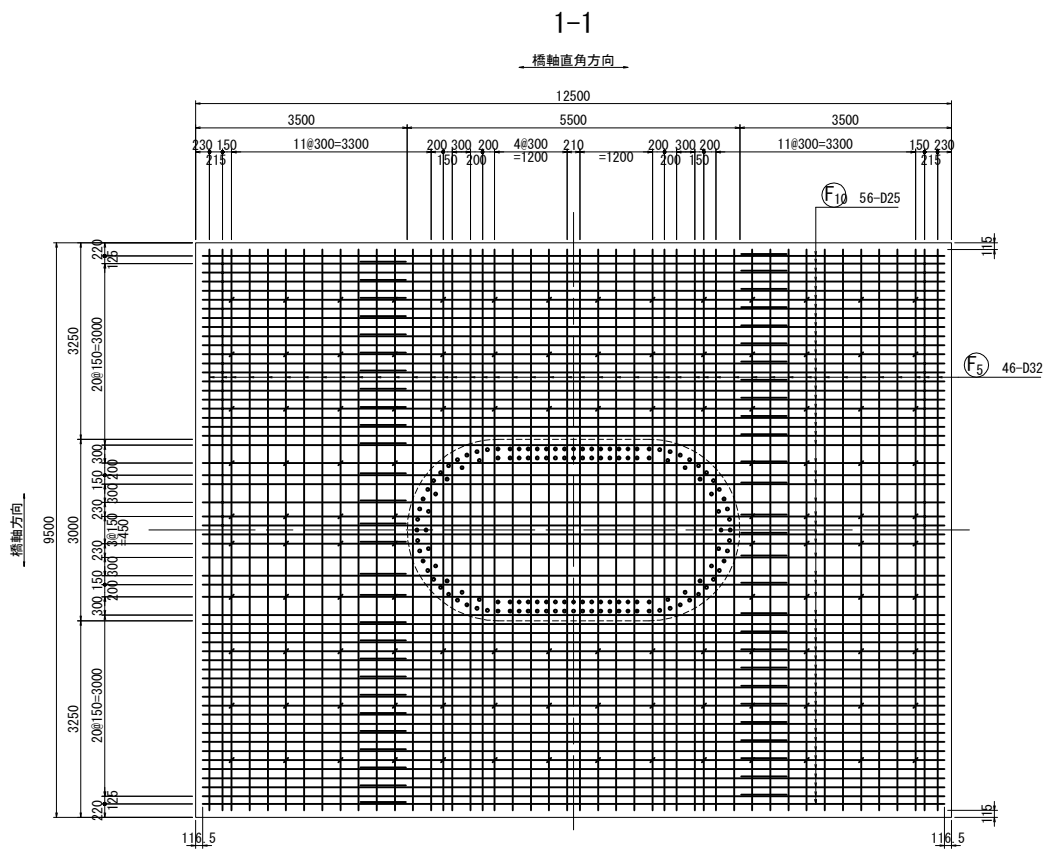
注2) ①印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

注3) ②鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。

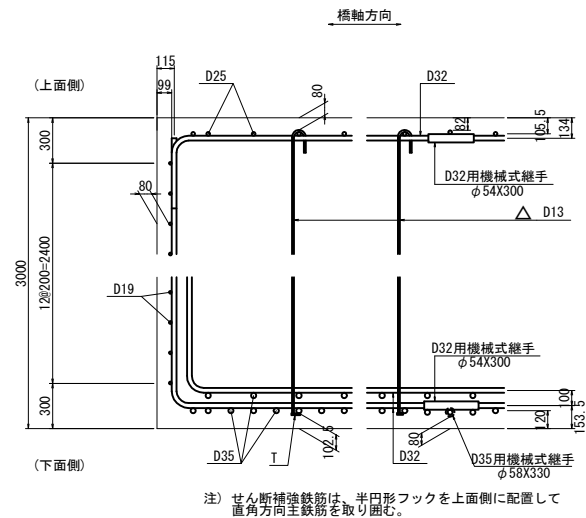
注4) 鉄筋長は切下りの10mm刻みとする。

注5) 柱主鉄筋はSD345、それ以外はSD345を使用する。

道東自動車道				
下トマム地区下土工事				
図面の種類		トマム跨線橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その４）		
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 建設技術研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

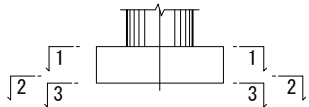


かぶり詳細図 縮尺 1:50



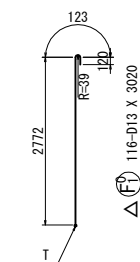
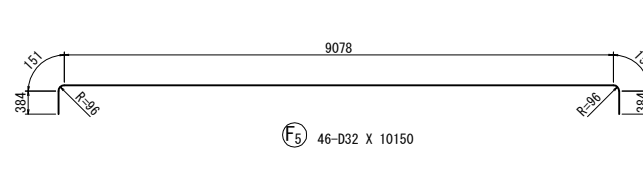
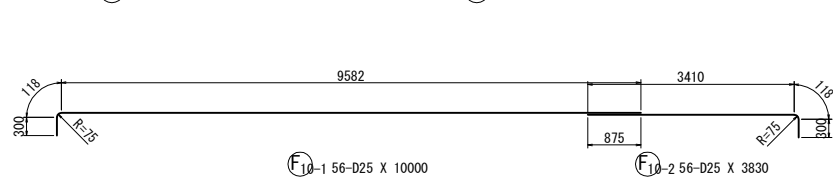
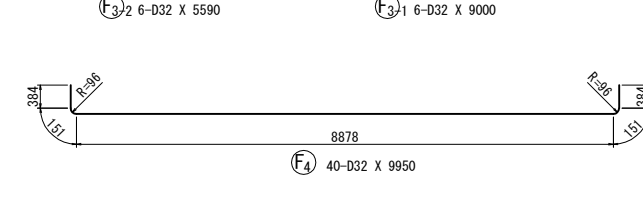
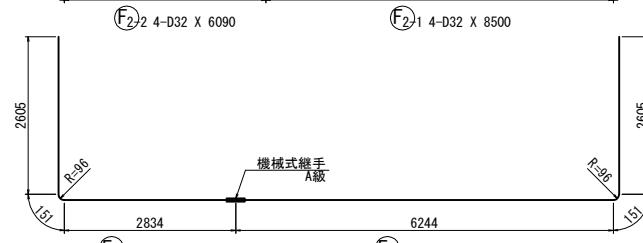
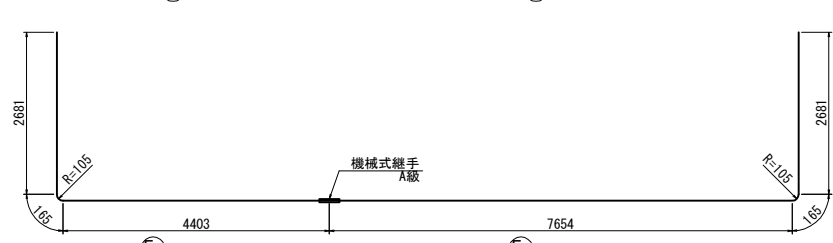
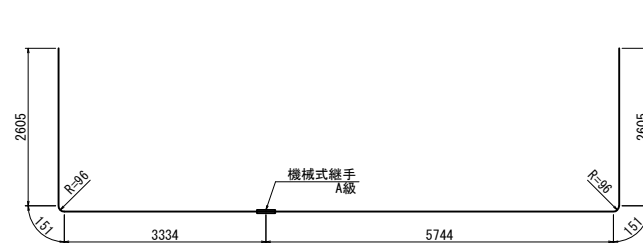
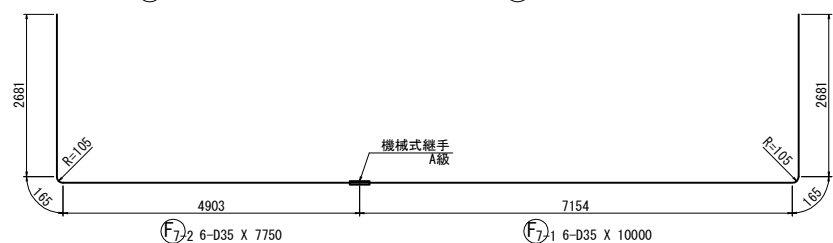
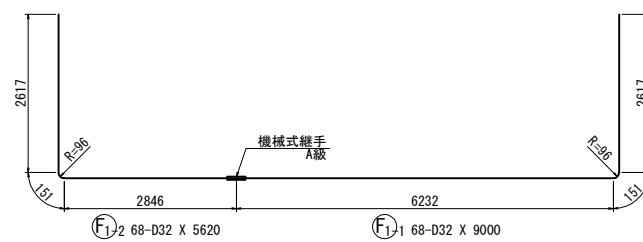
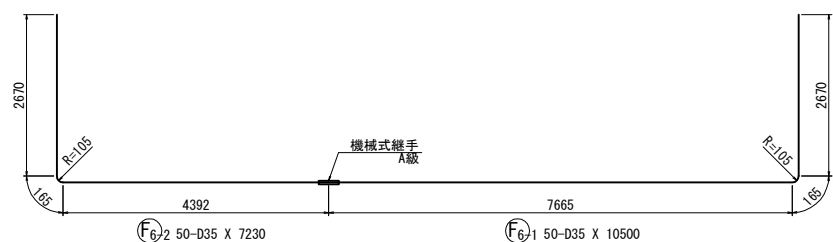
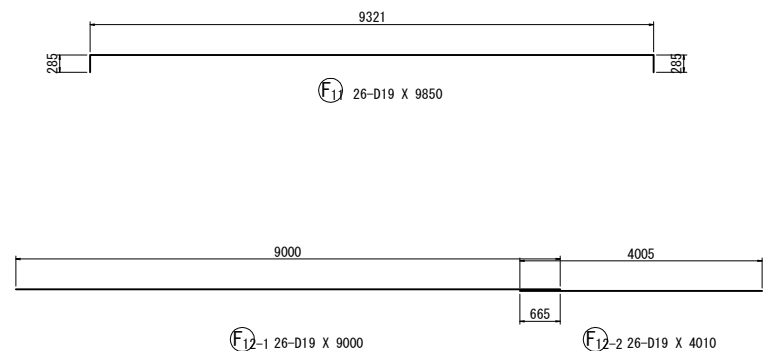
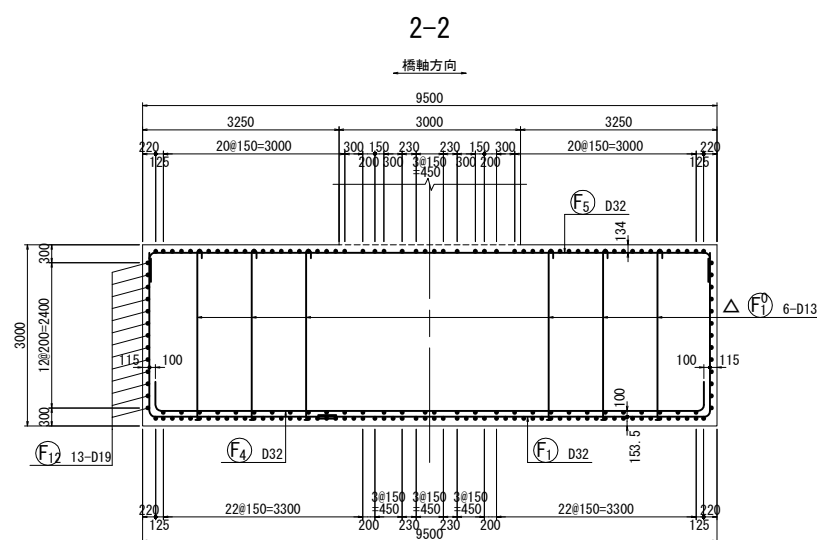
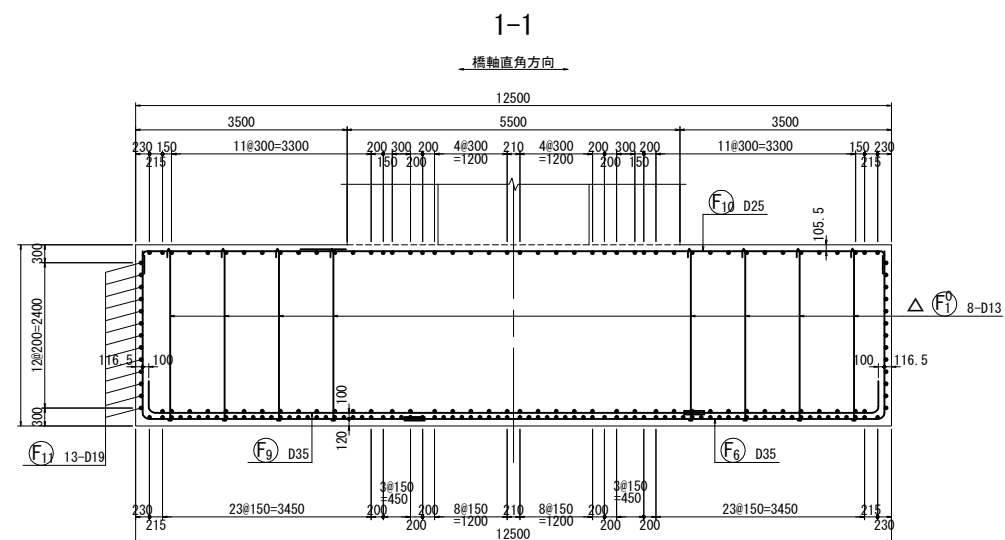
注) せん断補強鉄筋は、半円形フックを上側面に配置して直角方向主鉄筋を取り囲む。

位置図

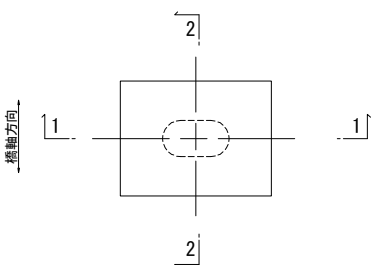


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注3) ◇鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

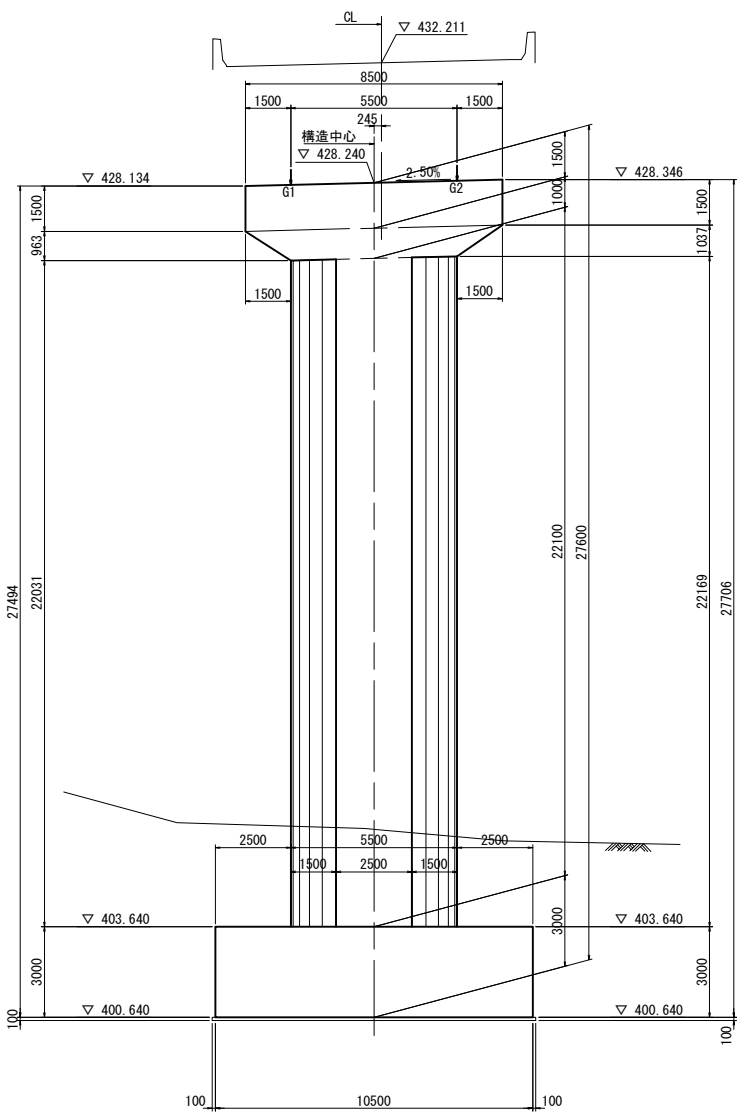
注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

注3) ◇鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。

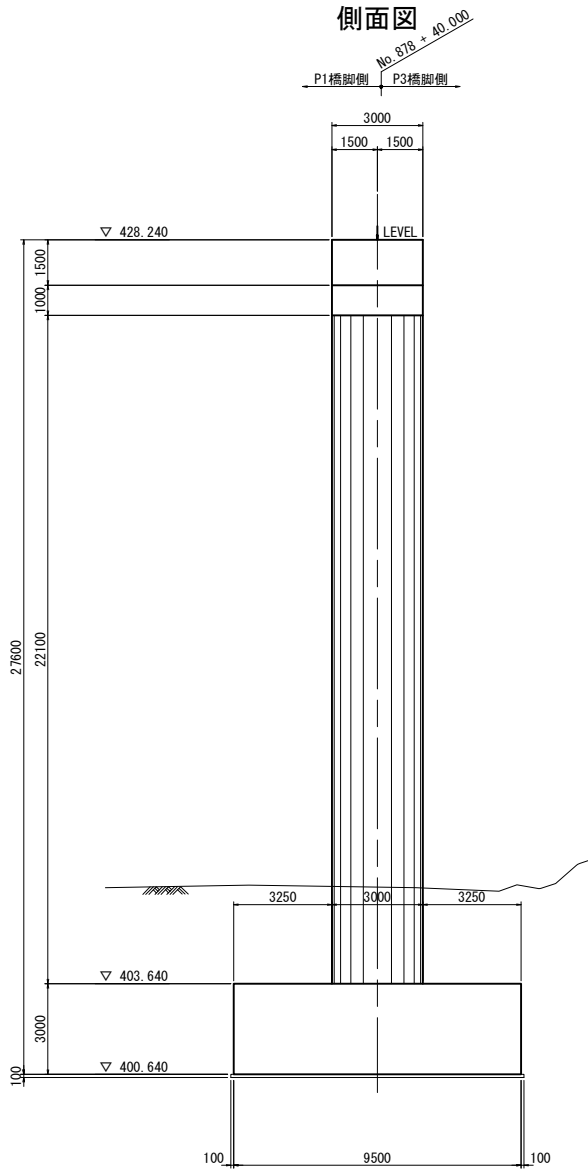
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

正面図



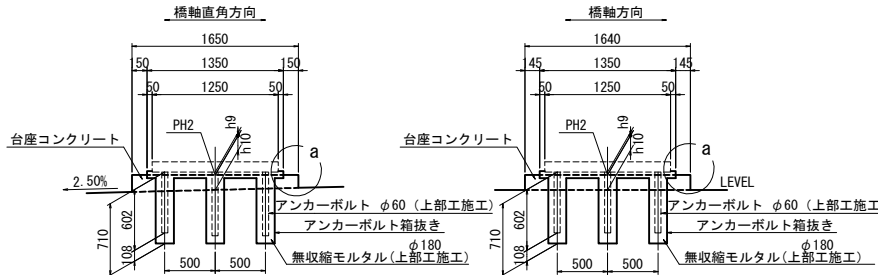
側面図



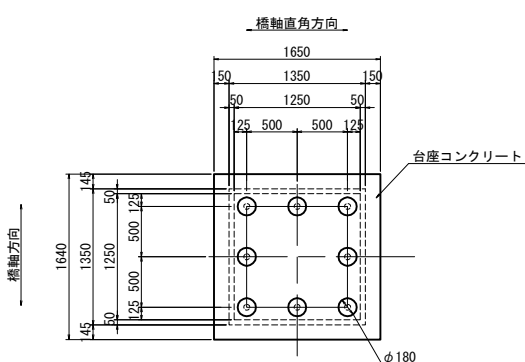
支承箱抜き詳細図

S=1:75

G1, G2

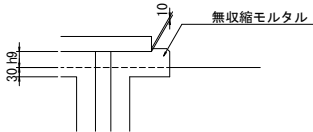


平面図

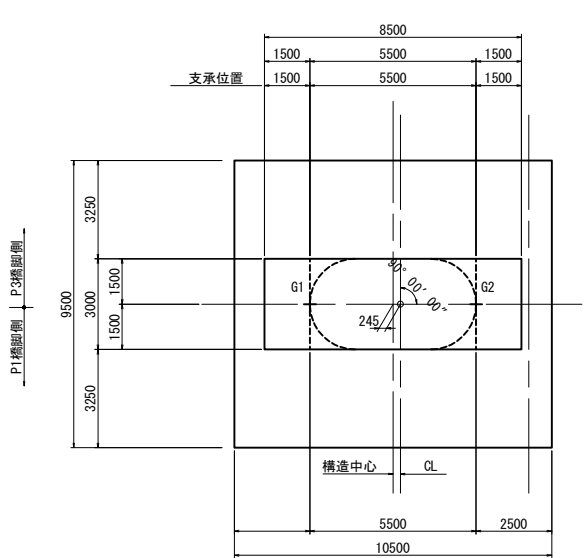


“a”部詳細図

S=1:25

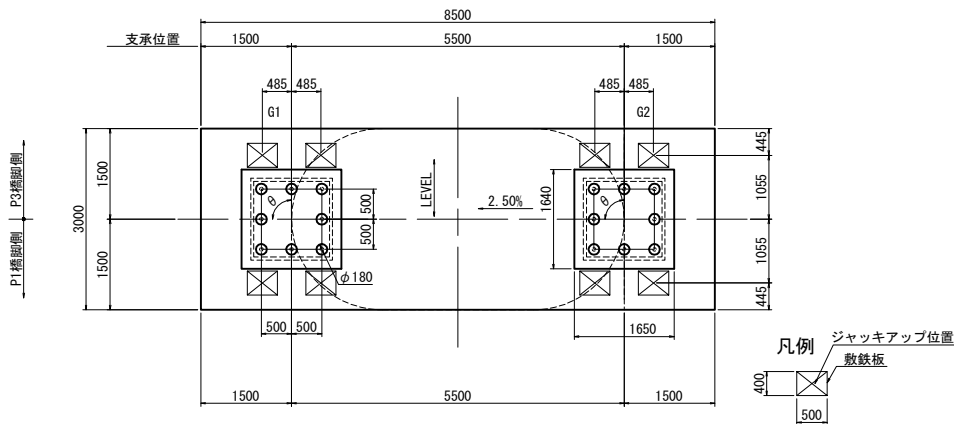


平面図



橋座平面図

S=1:125

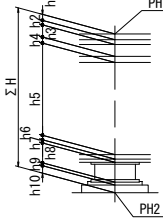


構造高表

(単位:m)

		G1	G2
路面計画高	PH1	432.136	432.274
舗装厚	h1	0.080	0.080
調整コンクリート厚	h2	0.004	0.014
床版厚	h3	0.250	0.250
ハンチ高	h4	0.100	0.100
桁高	h5	2.900	2.900
下フランジ厚	h6	0.027	0.028
ソールプレート厚	h7	0.046	0.046
支承高	h8	0.381	0.381
調整モルタル厚	h9	0.030	0.030
台座高	h10	0.147	0.136
合計	ΣH	3.965	3.965
下部工天端標高	PH2	428.171	428.309
支承座標	X	-105248.4967	-105253.1659
	Y	20047.3298	20050.2365
支承設置角度	θ	90° 00' 00"	90° 00' 00"

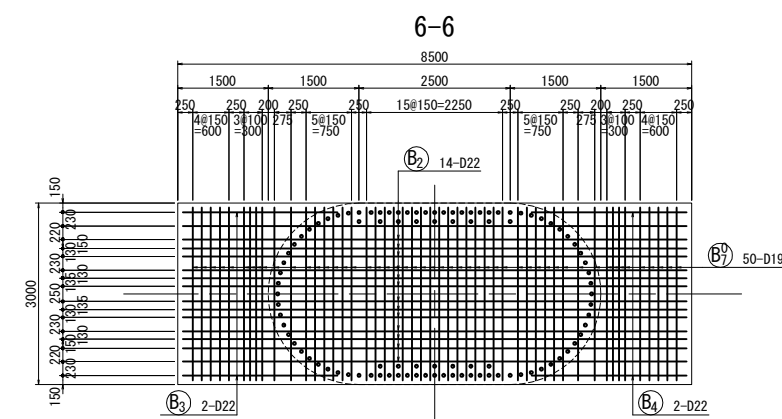
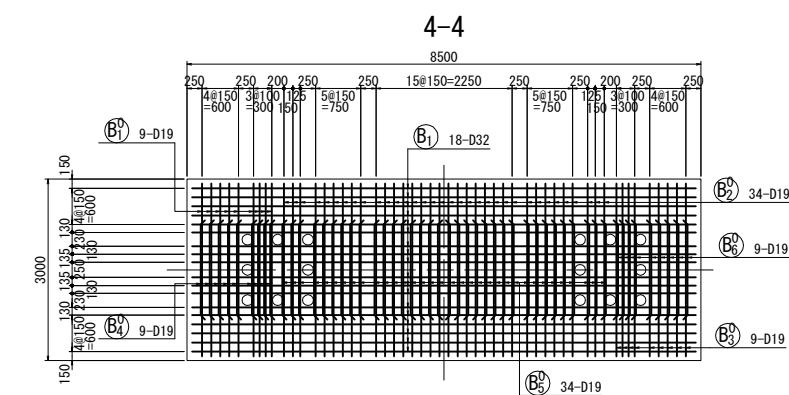
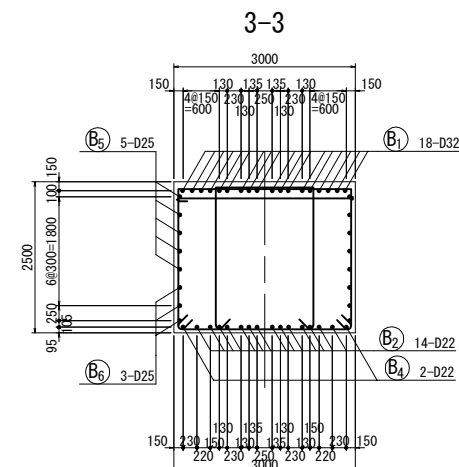
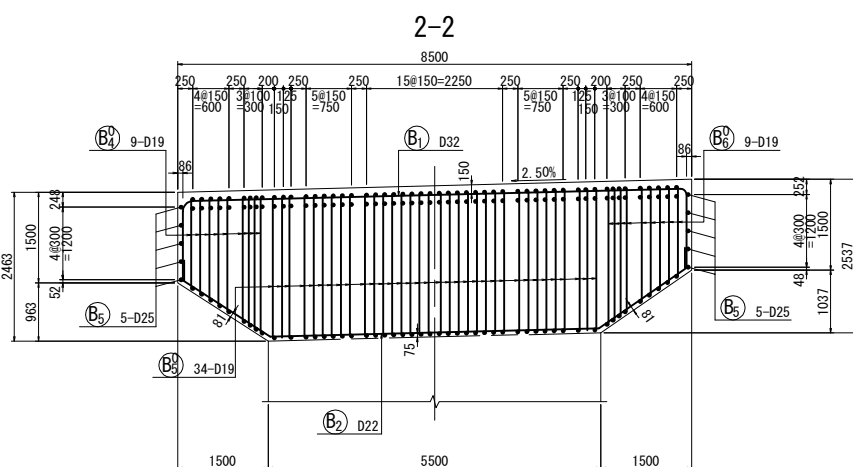
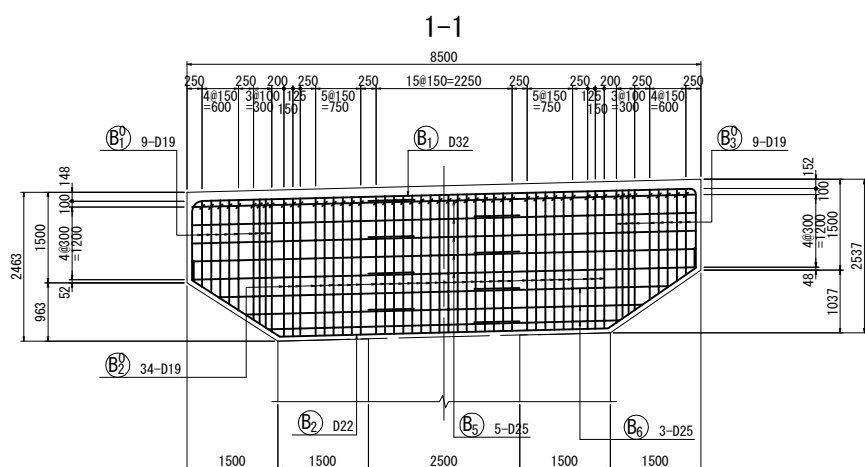
構造高図



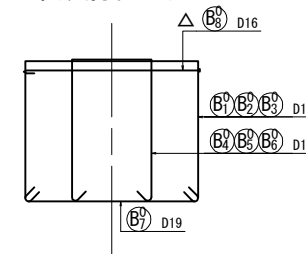
使用材料一覧表

使用区分	コンクリート設計基準強度	鉄筋種別
躯体	$\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$	SD490, SD345
フーチング	$\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$	SD345
均しコンクリート	$\sigma_{ck} = 18 \text{ N/mm}^2$	—

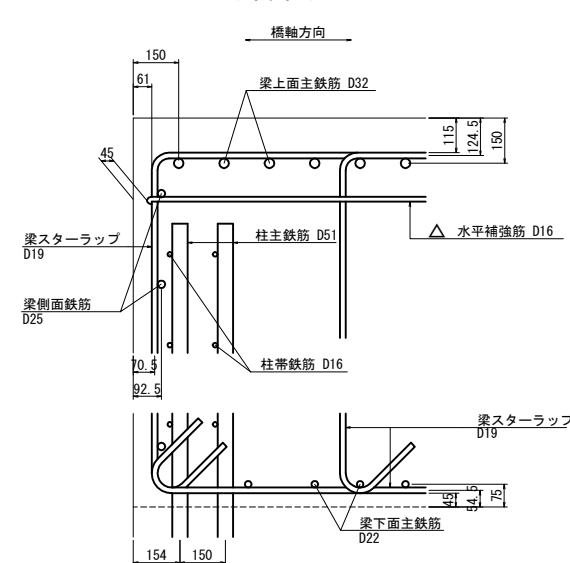
道東自動車道 下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 2 橋脚構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



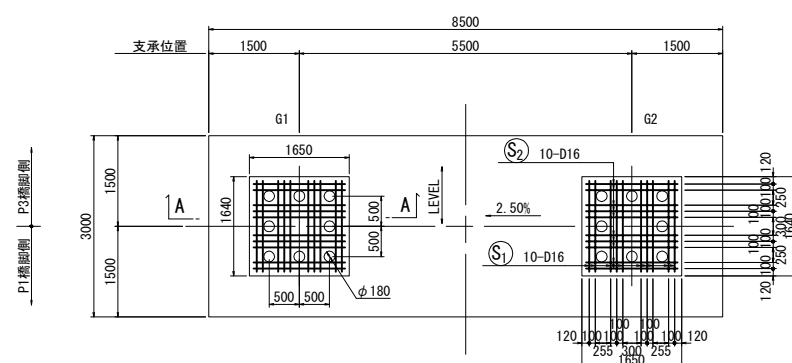
帯鉄筋組立図



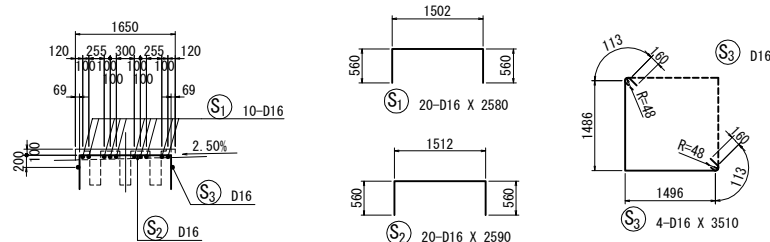
かぶり詳細図 S=1:25



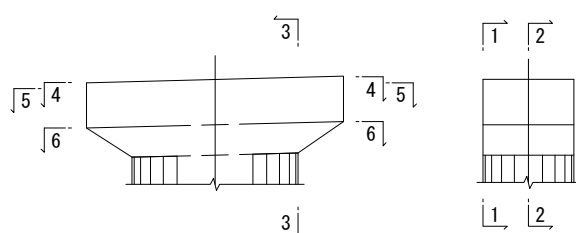
台座コンクリート配筋図



A-A

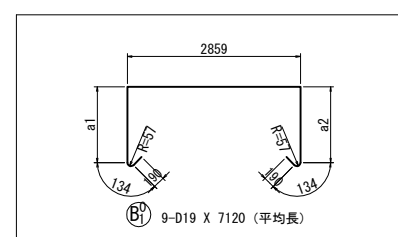
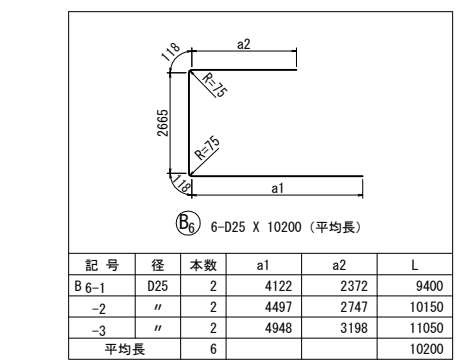
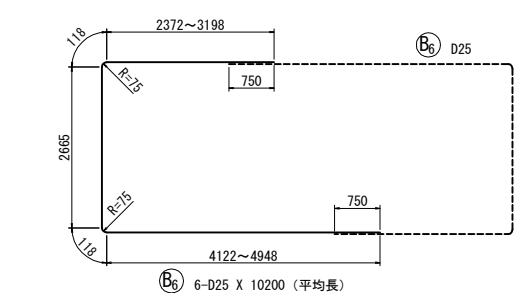
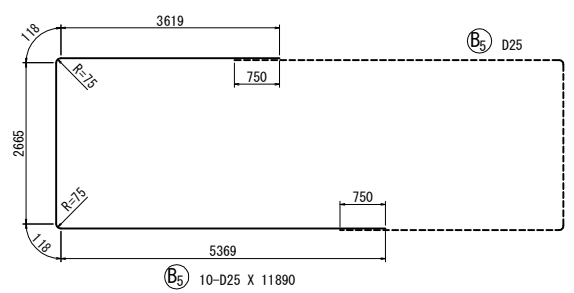
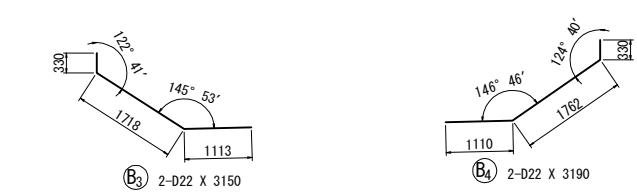
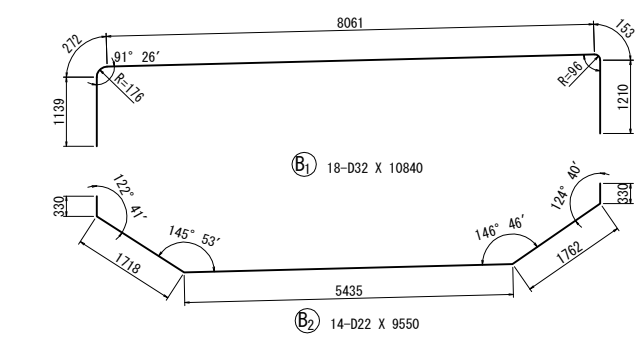


位置図

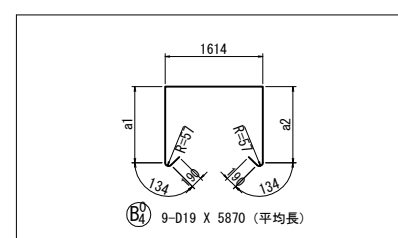


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注3) ◇鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

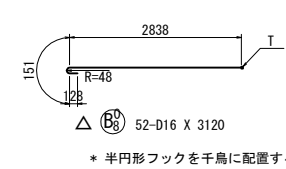
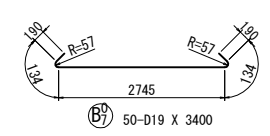
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 2 橋脚配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



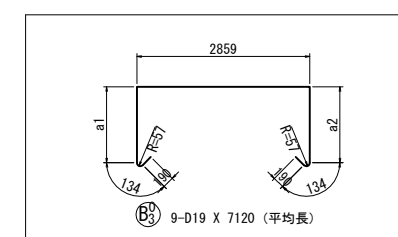
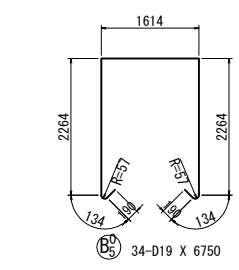
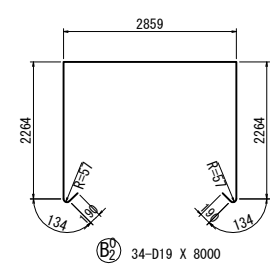
記号	径	本数	a1	a2	L
B6-1	D19	1	1413	1413	6300
- 2	"	1	1513	1513	6500
- 3	"	1	1613	1613	6700
- 4	"	1	1713	1713	6900
- 5	"	1	1813	1813	7100
- 6	"	1	1980	1980	7430
- 7	"	1	2047	2047	7570
- 8	"	1	2113	2113	7700
- 9	"	1	2180	2180	7830
平均長		9			7120



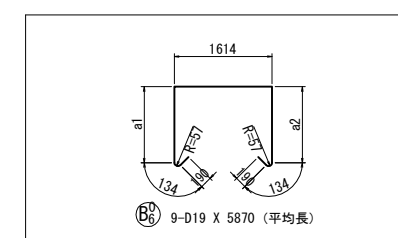
記号	径	本数	a1	a2	L
B7-1	D19	1	1413	1413	5050
- 2	"	1	1513	1513	5250
- 3	"	1	1613	1613	5450
- 4	"	1	1713	1713	5650
- 5	"	1	1813	1813	5850
- 6	"	1	1980	1980	6190
- 7	"	1	2047	2047	6320
- 8	"	1	2113	2113	6450
- 9	"	1	2180	2180	6590
平均長		9			5870



* 半円形フックを千鳥に配置すること。



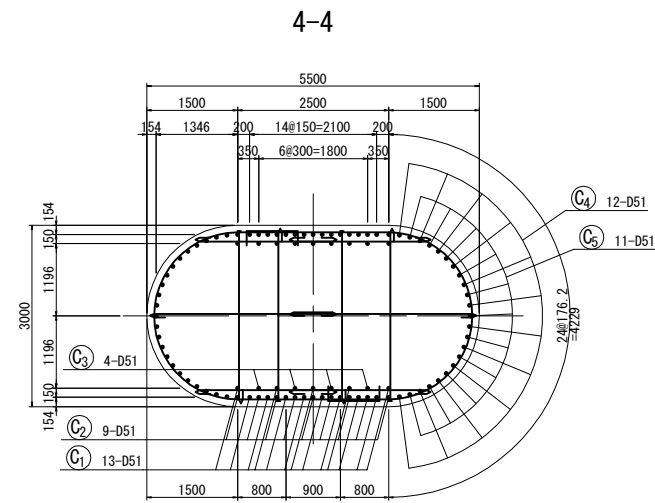
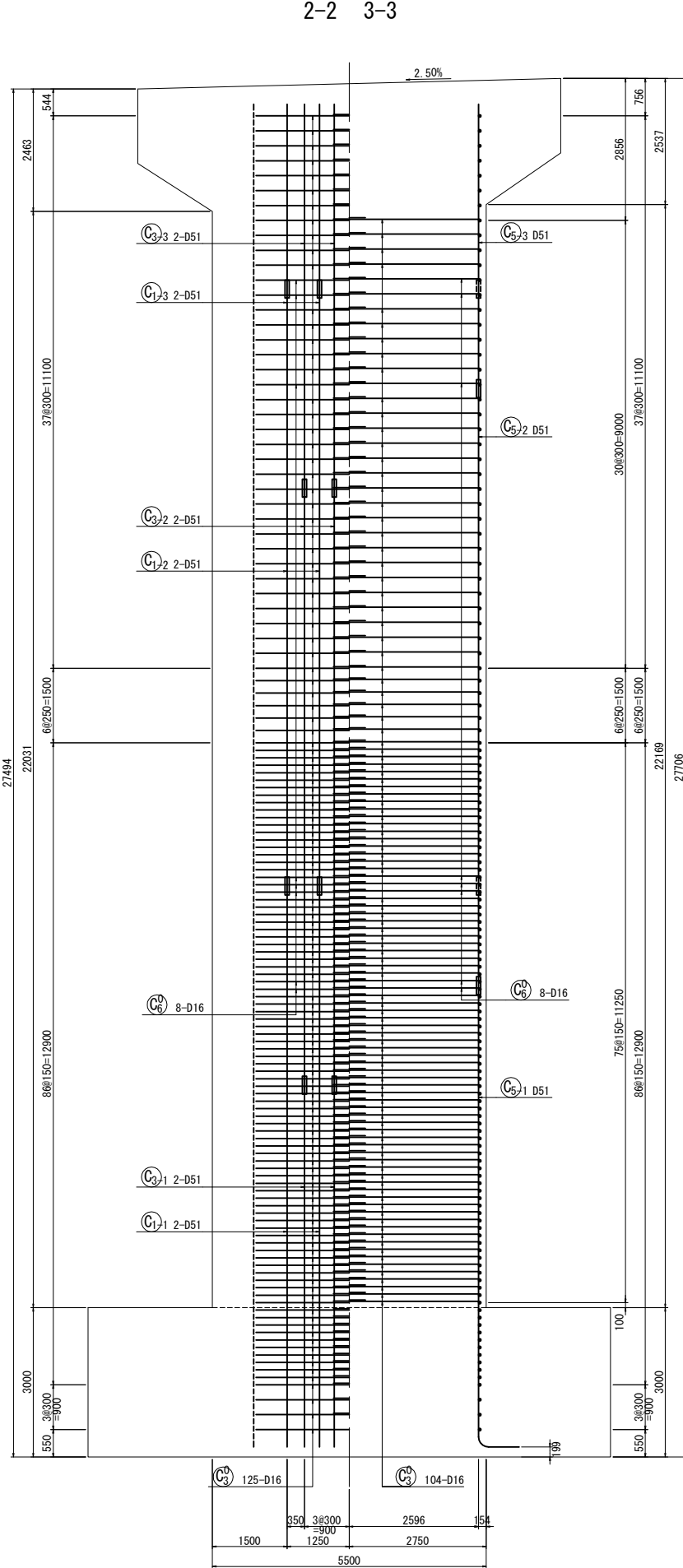
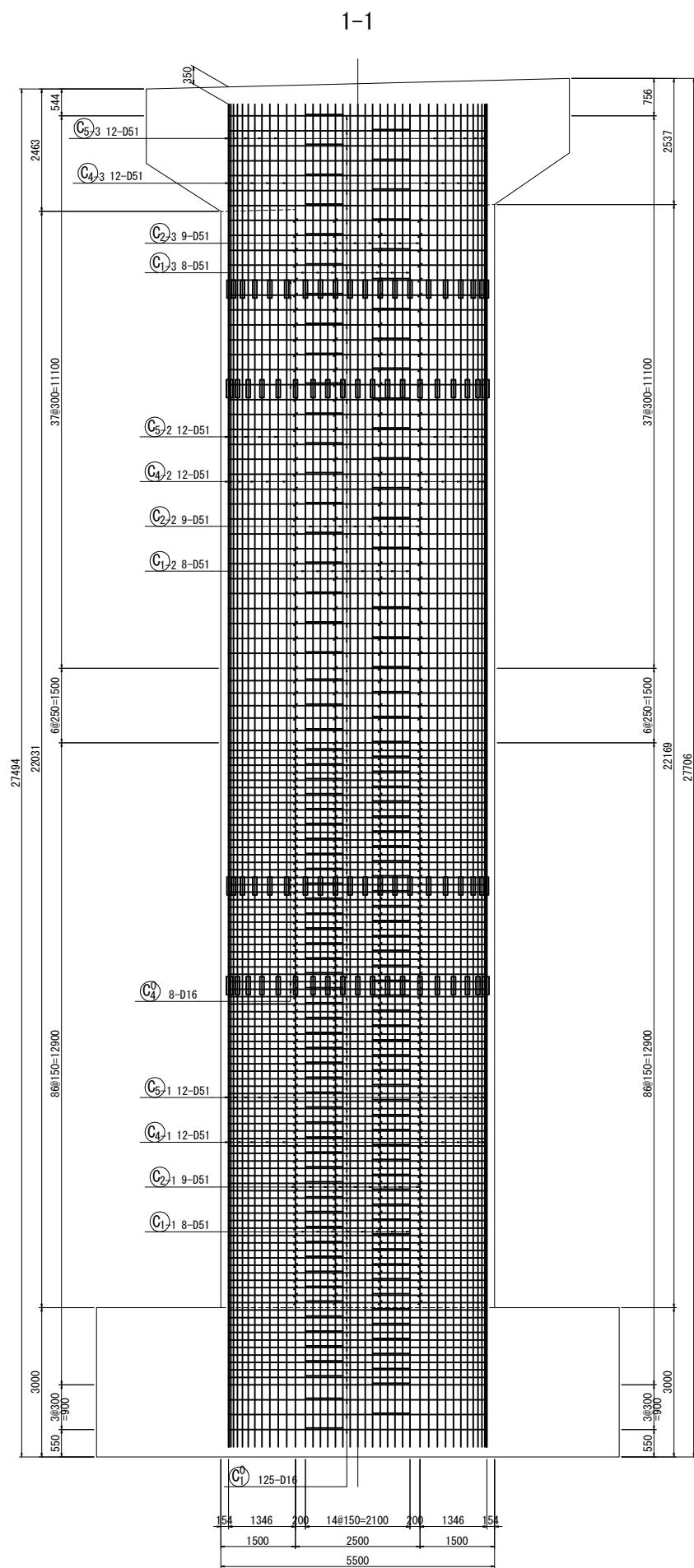
記号	径	本数	a1	a2	L
B12-1	D19	1	1412	1412	6300
- 2	"	1	1512	1512	6500
- 3	"	1	1612	1612	6700
- 4	"	1	1712	1712	6900
- 5	"	1	1812	1812	7100
- 6	"	1	1978	1978	7430
- 7	"	1	2045	2045	7560
- 8	"	1	2112	2112	7700
- 9	"	1	2178	2178	7830
平均長		9			7120



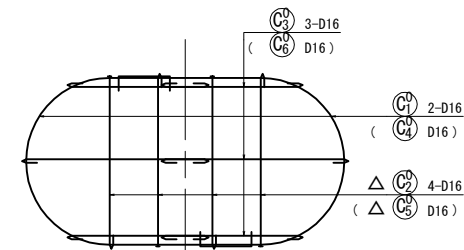
記号	径	本数	a1	a2	L
B13-1	D19	1	1412	1412	5050
- 2	"	1	1512	1512	5250
- 3	"	1	1612	1612	5450
- 4	"	1	1712	1712	5650
- 5	"	1	1812	1812	5850
- 6	"	1	1978	1978	6180
- 7	"	1	2045	2045	6320
- 8	"	1	2112	2112	6450
- 9	"	1	2178	2178	6580
平均長		9			5870

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注3) >鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 2 橋脚配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

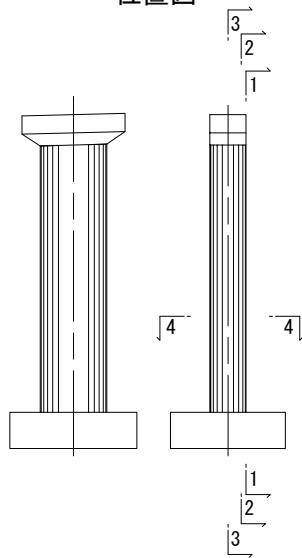


帯鉄筋組立図

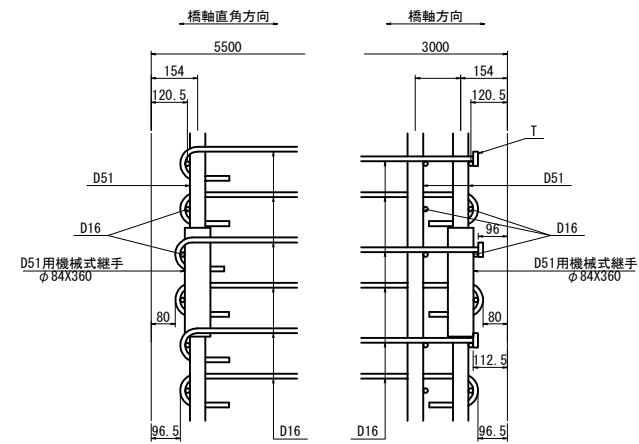


* () は、機械継手箇所に配置される鉄筋の記号を示す。
* 機械式定着体を使用する鉄筋は、重ね継手部には半円形フック側を配置すること。

位置図

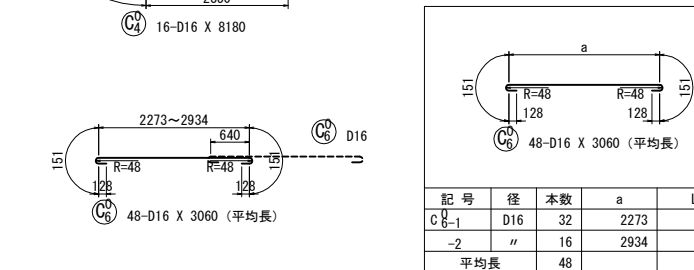
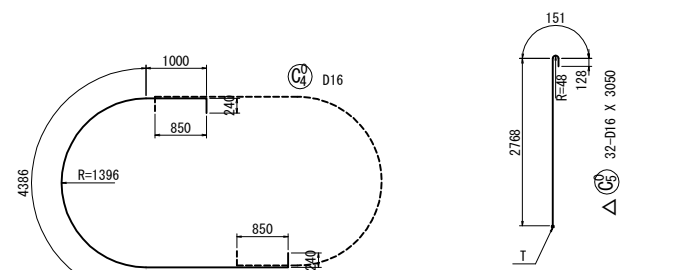
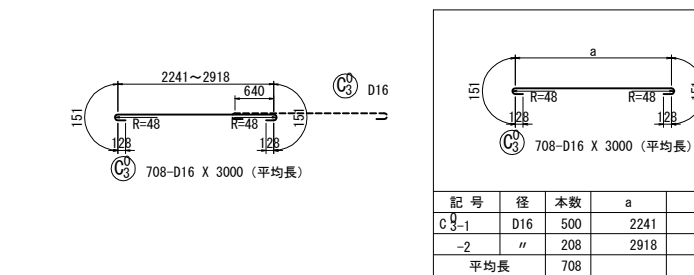
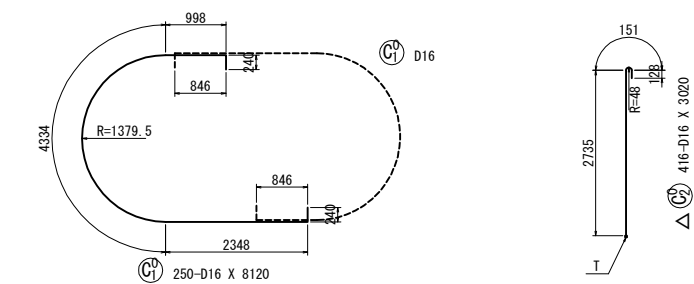
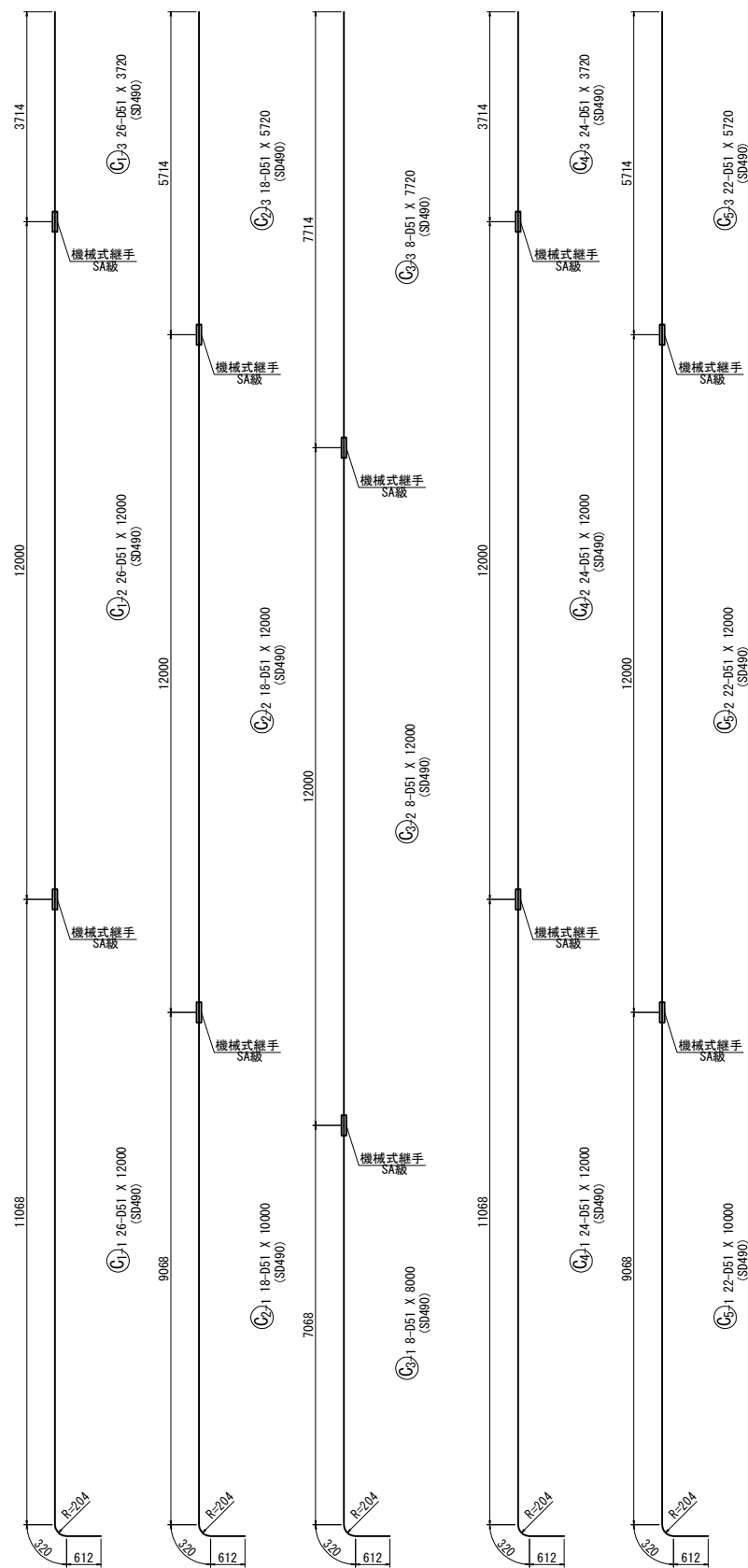
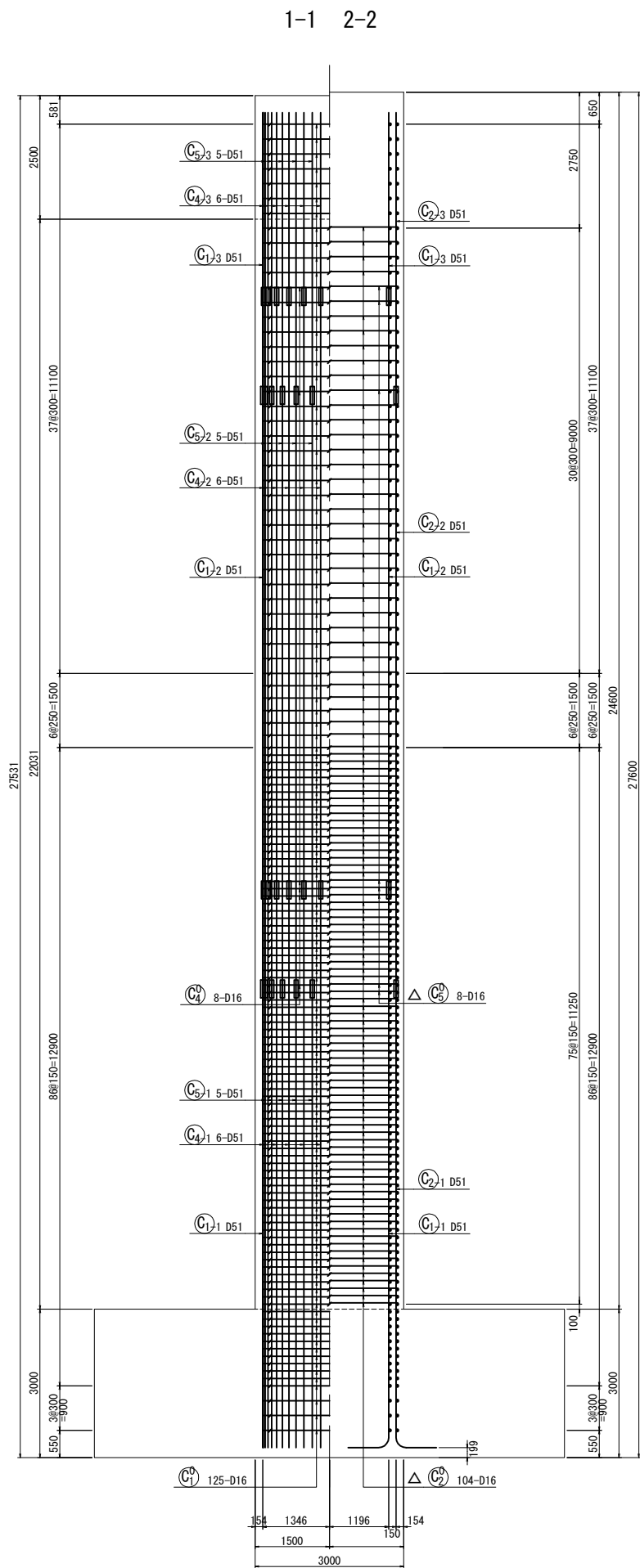


かぶり詳細図 S=1:25



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7. 10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注3) ◇鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注5) 柱主鉄筋はSD490、それ以外はSD345を使用する。

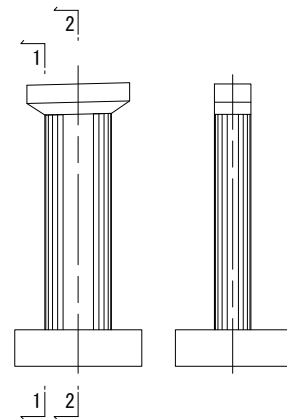
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 2 橋脚配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



記号	径	本数	a	L
C1-1	D16	500	2241	2800
-2	"	208	2918	3480
平均長		708		3000

記号	径	本数	a	L
C1-1	D16	32	2273	2840
-2	"	16	2934	3500
平均長		48		3060

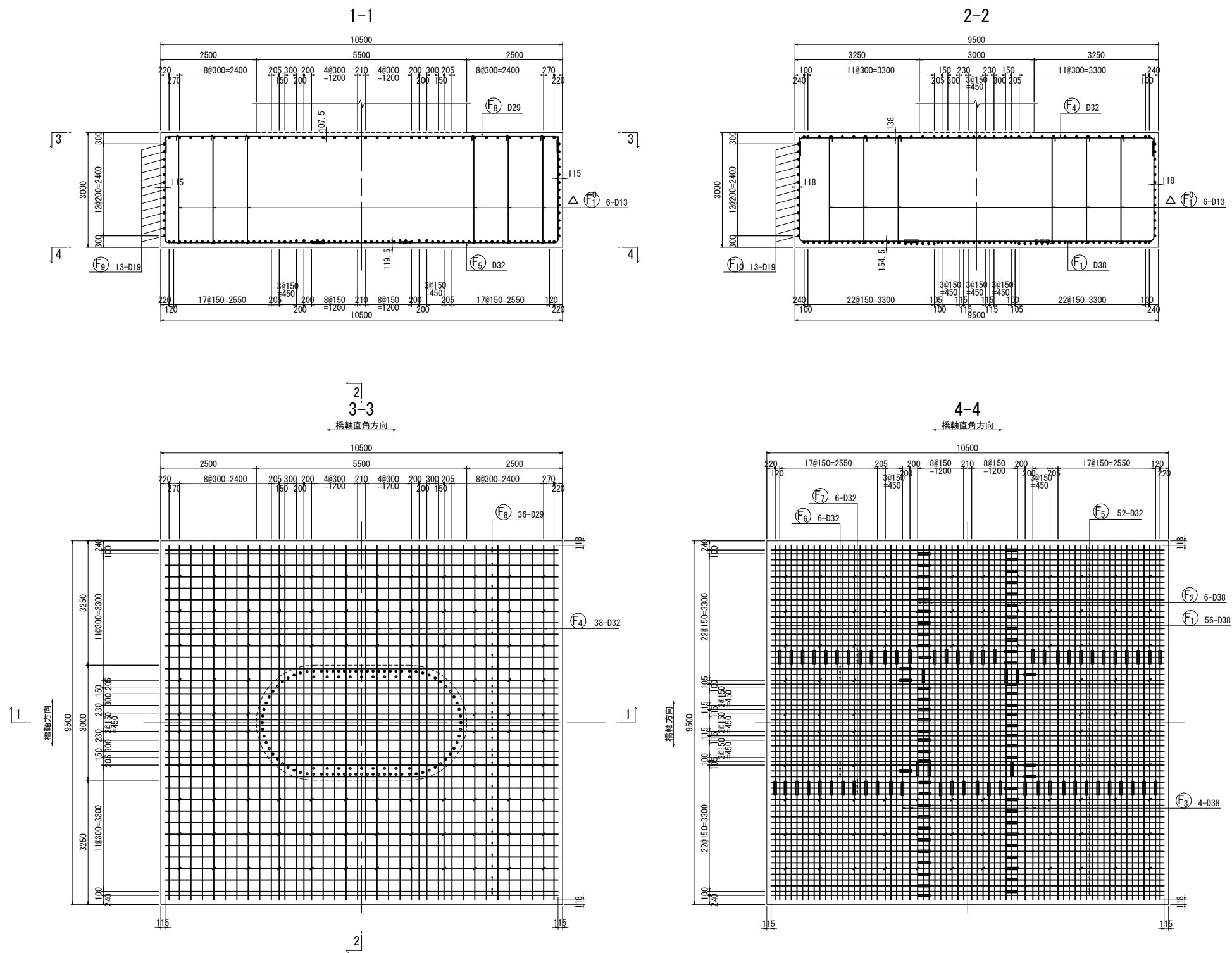
位置図



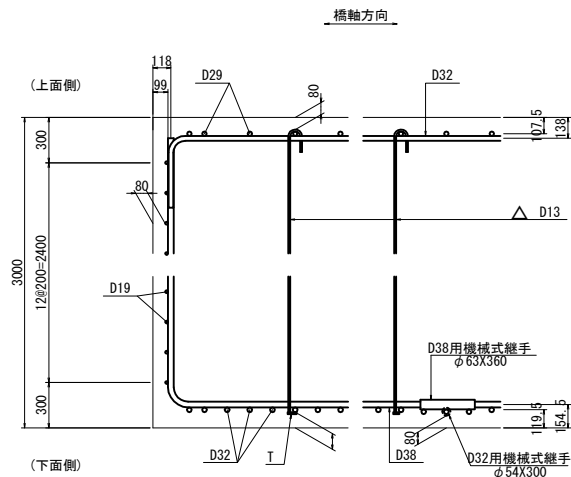
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注3) ◇鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注5) 柱主鉄筋はSD490、それ以外はSD345を使用する。

道東自動車道				
下トナム地区下部工工事				
図面の種類	トナム跨線橋（下り線） P 2 橋脚配筋図（その４）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 建設技術研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			



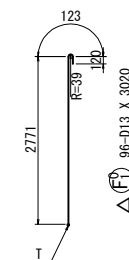
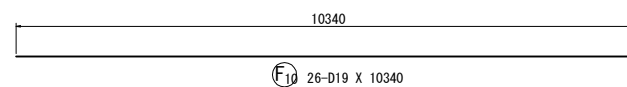
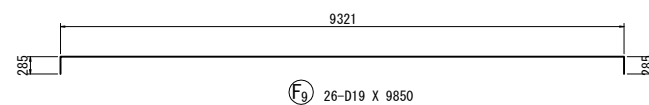
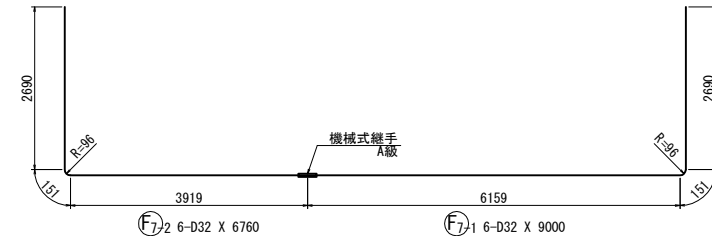
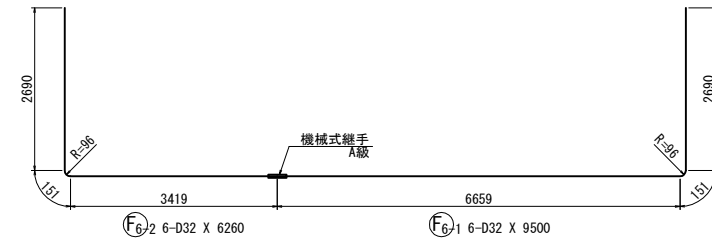
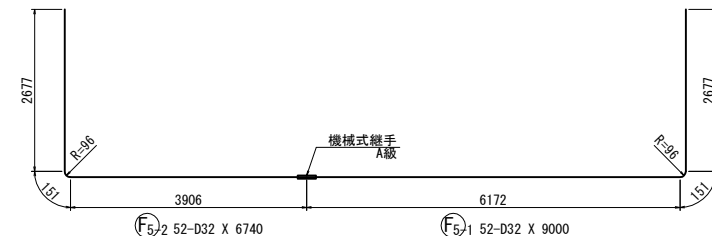
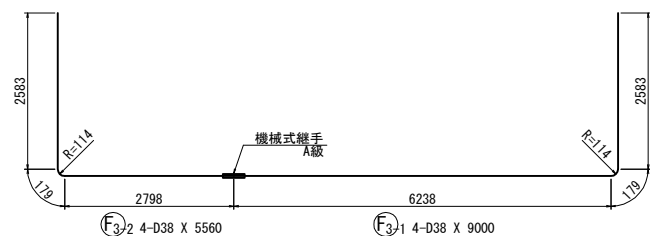
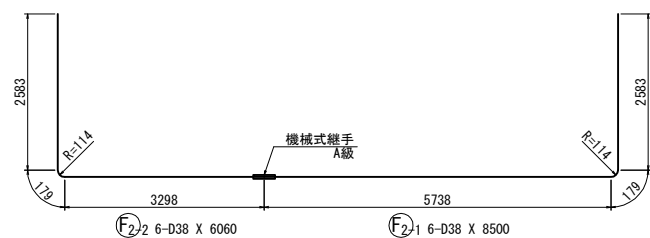
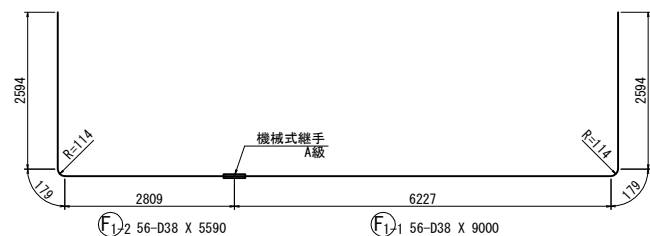
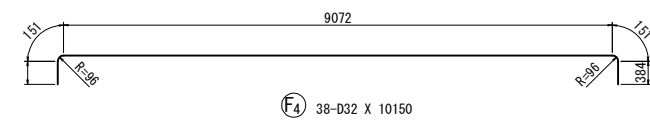
かぶり詳細図 縮尺 1:50



注) せん断補強鉄筋は、半円形フックを上側に配置して
直角方向主鉄筋を取り囲む。

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、
下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と
半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注3) ◇鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

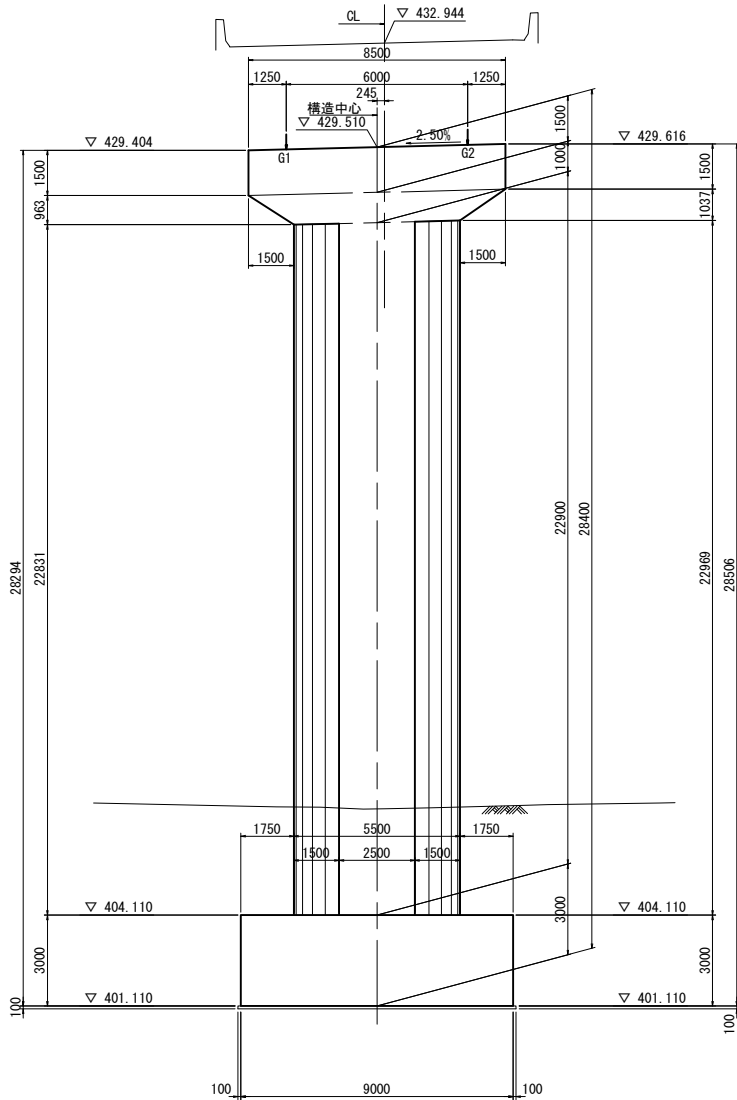
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 2 橋脚配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



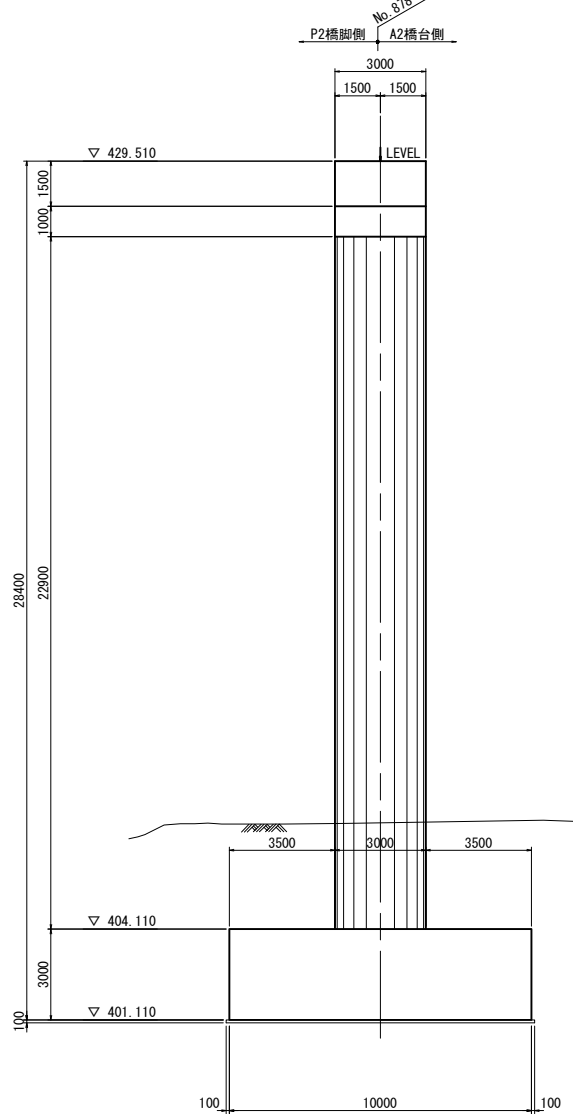
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(R7. 10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注3) ◇鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 2 橋脚配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

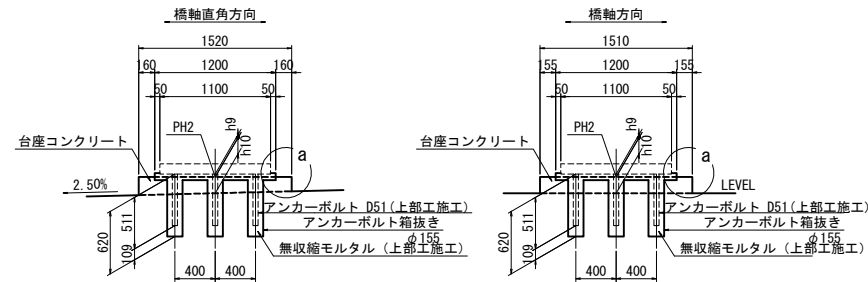
正面図



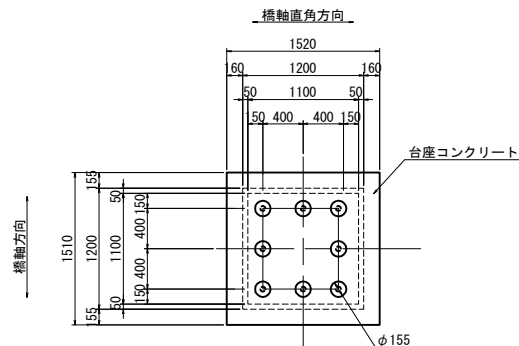
側面図



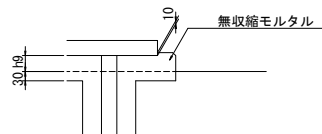
支承箱抜き詳細図 S=1:75
G1, G2



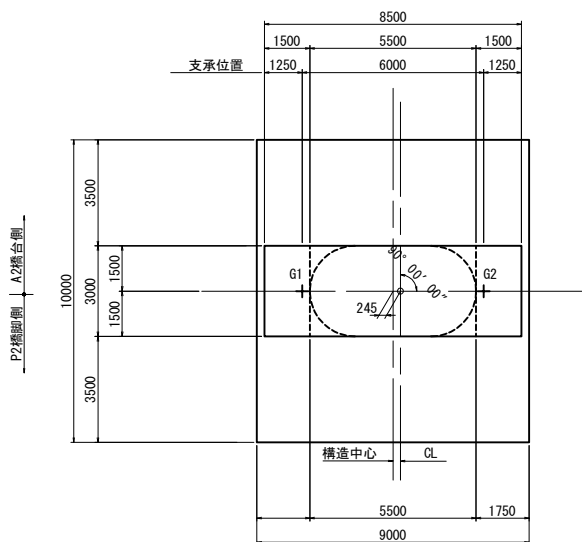
平面図



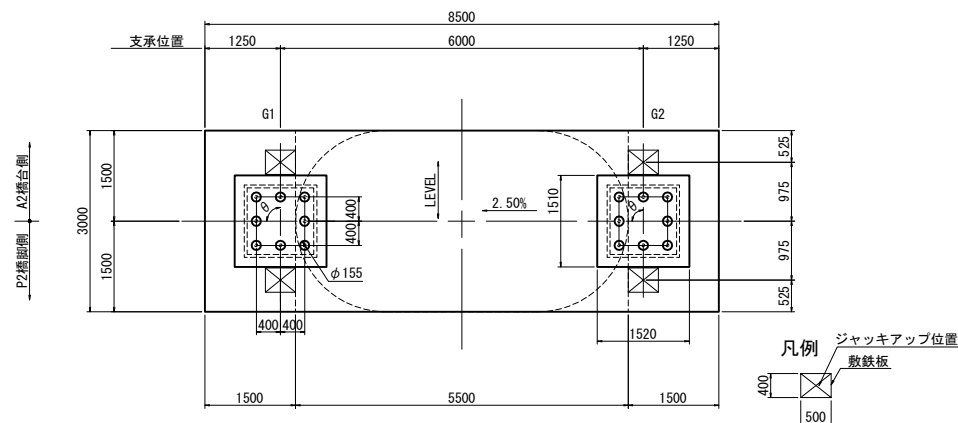
“a”部詳細図 S=1:25



平面図



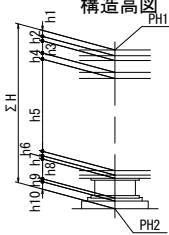
橋座平面図 S=1:125



構造高表

		(単位:m)	
		G1	G2
路面計画高	PH1	432.863	433.013
舗装厚	h1	0.080	0.080
調整コンクリート厚	h2	0.003	0.014
床版厚	h3	0.320	0.320
ハンチ高	h4	0.100	0.100
桁高	h5	2.300	2.300
下フランジ厚	h6	0.034	0.034
ソールプレート厚	h7	0.045	0.045
支承高	h8	0.355	0.355
調整モルタル厚	h9	0.030	0.030
台座高	h10	0.161	0.150
合計	ΣH	3.428	3.428
下部工天端標高	PH2	429.435	429.585
支承座標	X	-105224.5029	-105229.5966
	Y	20085.4003	20088.5712
支承設置角度	θ	90° 00' 00"	90° 00' 00"

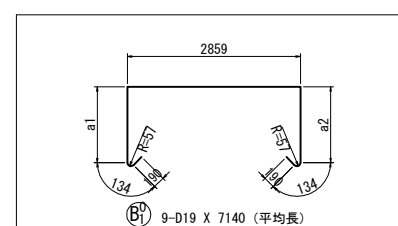
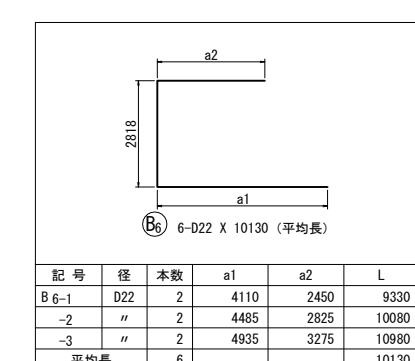
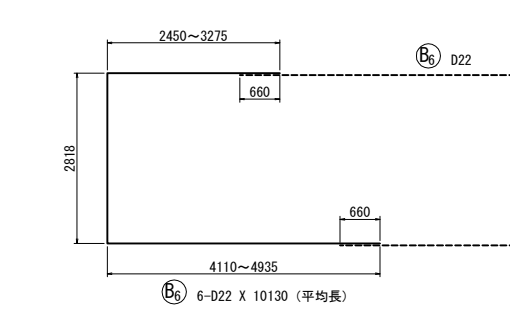
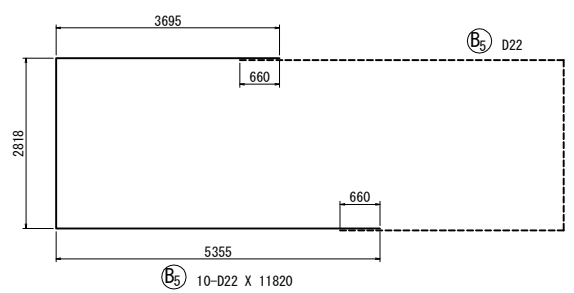
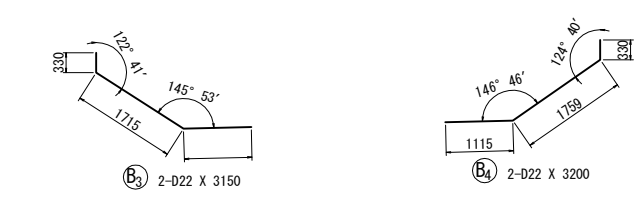
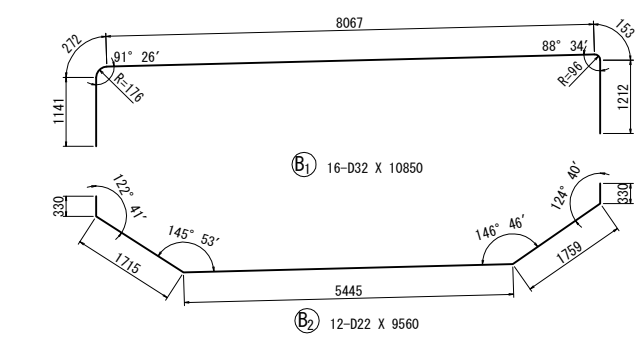
構造高図



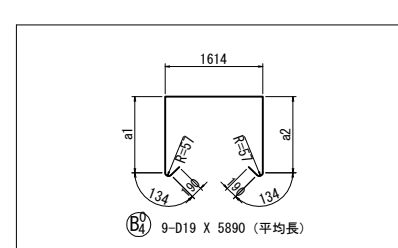
使用材料一覧表

使用区分	コンクリート設計基準強度	鉄筋種別
躯体	$\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$	SD490, SD345
フーチング	$\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$	SD345
均しコンクリート	$\sigma_{ck} = 18 \text{ N/mm}^2$	—

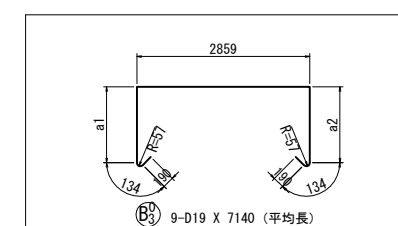
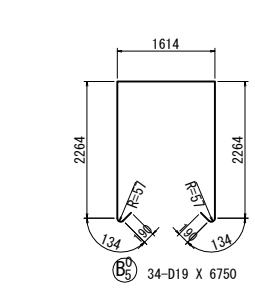
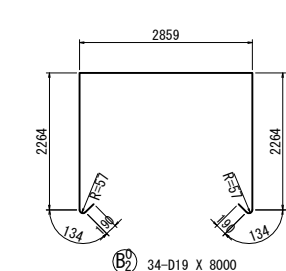
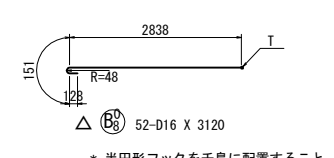
道東自動車道 下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 3 橋脚構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



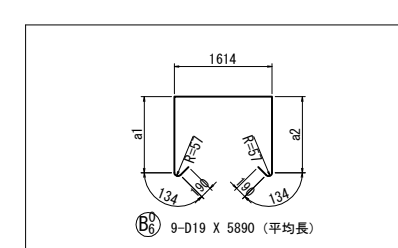
記号	径	本数	a1	a2	L
B 1-1	D19	1	1417	1417	6310
-2	"	1	1517	1517	6510
-3	"	1	1617	1617	6710
-4	"	1	1717	1717	6910
-5	"	1	1884	1884	7240
-6	"	1	1950	1950	7370
-7	"	1	2017	2017	7510
-8	"	1	2150	2150	7770
-9	"	1	2217	2217	7910
平均長		9			7140



記号	径	本数	a1	a2	L
B 4-1	D19	1	1417	1417	5060
-2	"	1	1517	1517	5260
-3	"	1	1617	1617	5460
-4	"	1	1717	1717	5660
-5	"	1	1884	1884	5990
-6	"	1	1950	1950	6130
-7	"	1	2017	2017	6260
-8	"	1	2150	2150	6530
-9	"	1	2217	2217	6660
平均長		9			5890



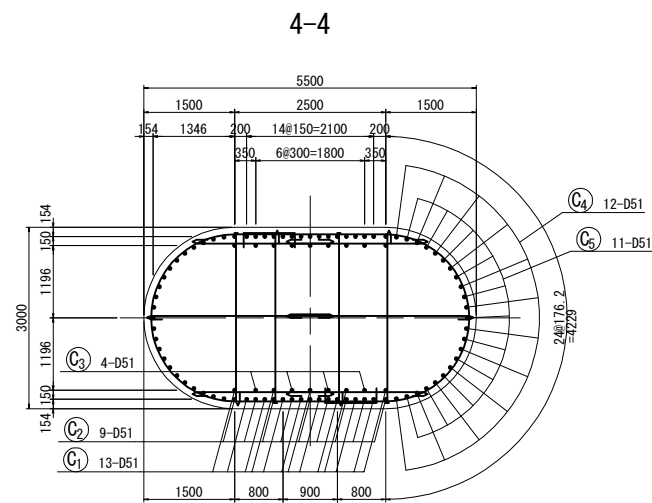
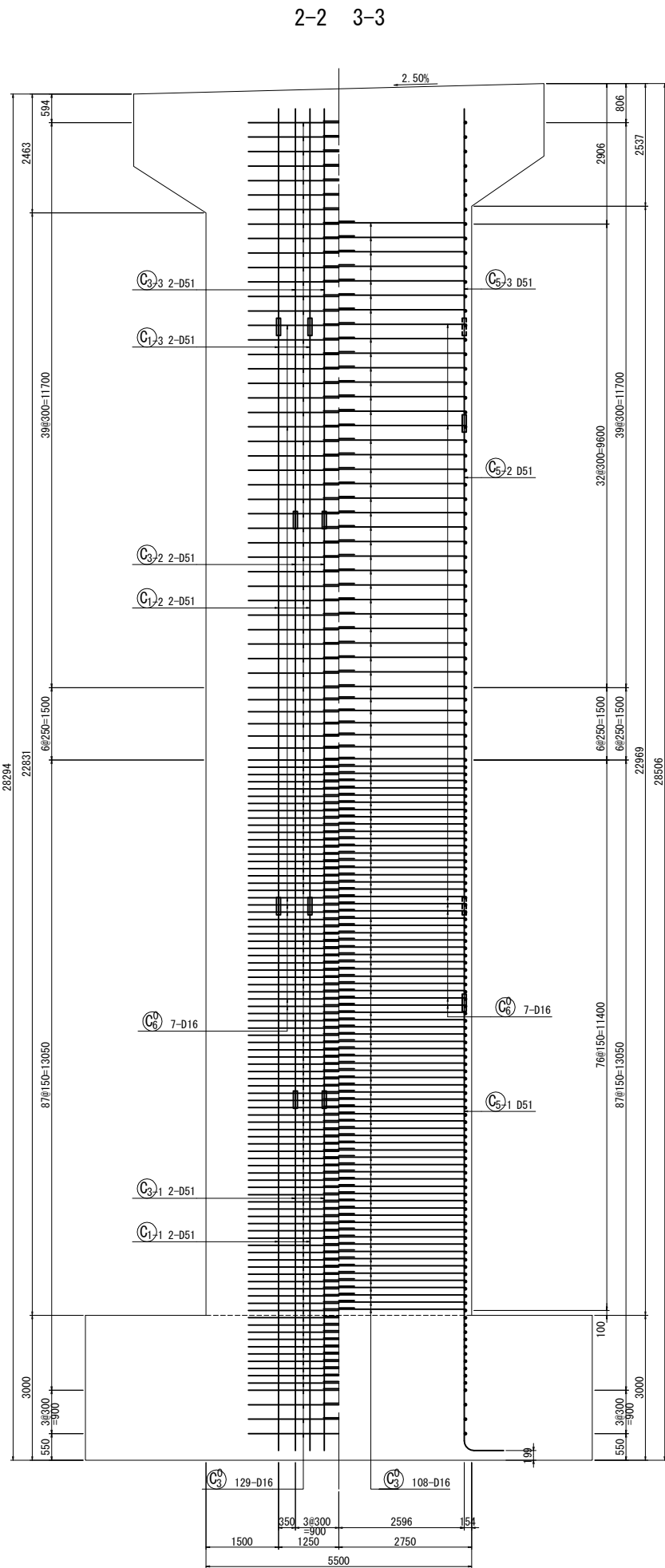
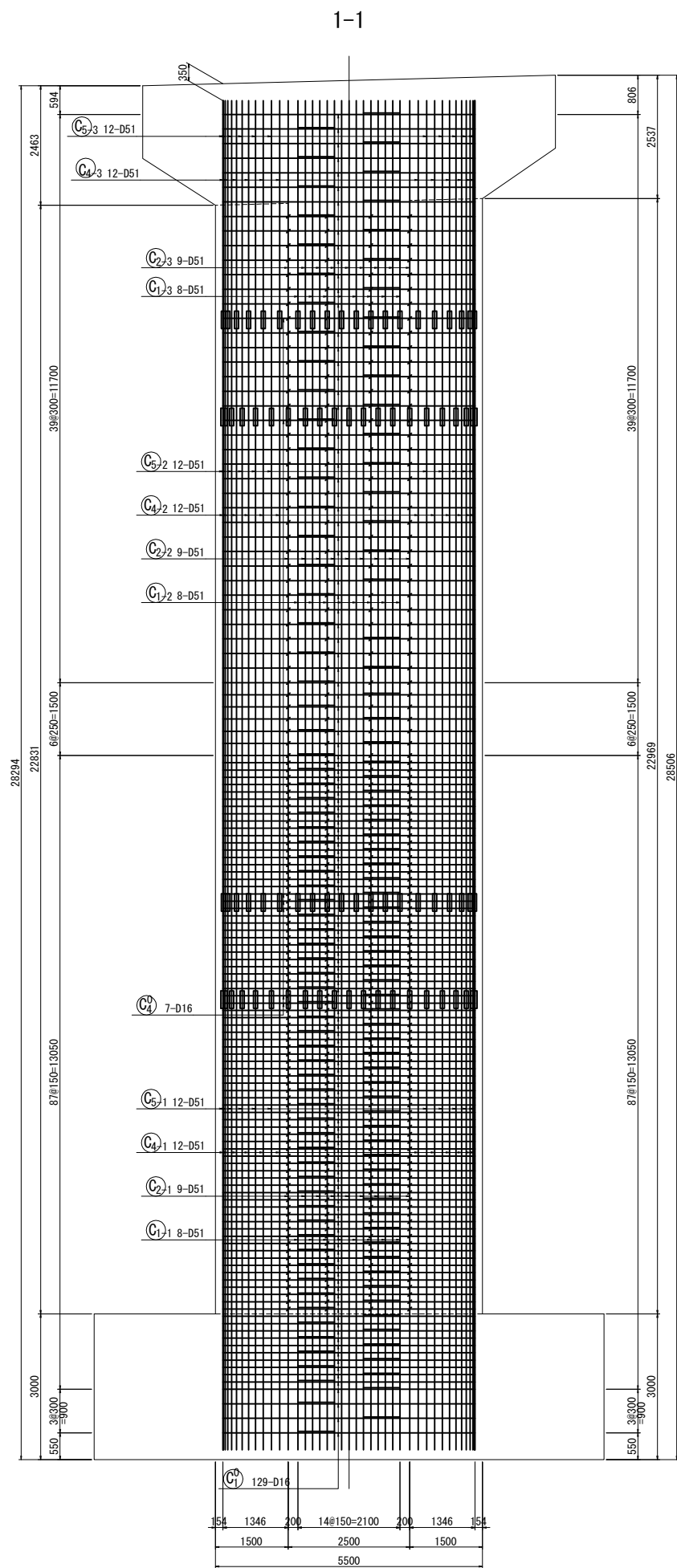
記号	径	本数	a1	a2	L
B 3-1	D19	1	1415	1415	6300
-2	"	1	1515	1515	6500
-3	"	1	1615	1615	6700
-4	"	1	1715	1715	6900
-5	"	1	1882	1882	7240
-6	"	1	1949	1949	7370
-7	"	1	2015	2015	7500
-8	"	1	2149	2149	7770
-9	"	1	2215	2215	7900
平均長		9			7140



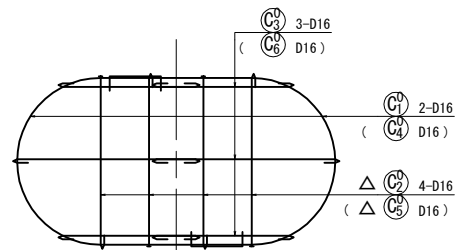
記号	径	本数	a1	a2	L
B 4-1	D19	1	1415	1415	5060
-2	"	1	1515	1515	5260
-3	"	1	1615	1615	5460
-4	"	1	1715	1715	5660
-5	"	1	1882	1882	5990
-6	"	1	1949	1949	6120
-7	"	1	2015	2015	6260
-8	"	1	2149	2149	6520
-9	"	1	2215	2215	6660
平均長		9			5890

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注3) >鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 3 橋脚配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

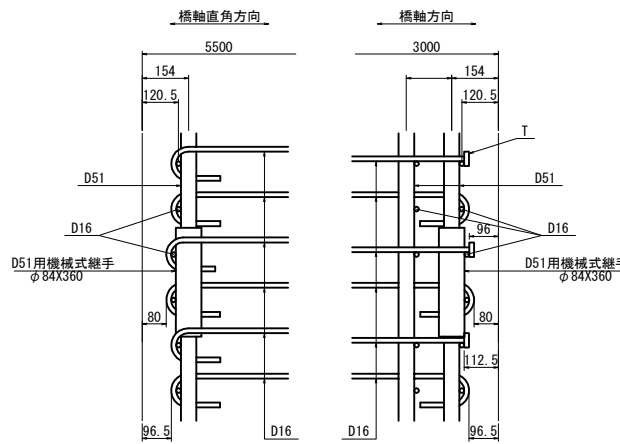


帯鉄筋組立図



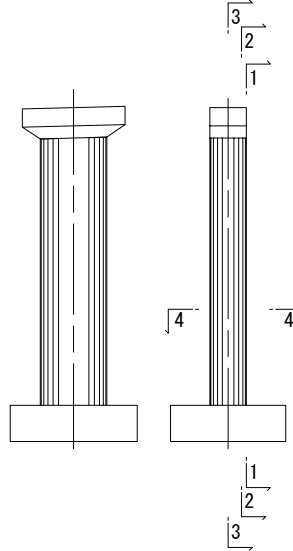
* () は、機械継手箇所に配置される鉄筋の記号を示す。
* 機械式定着体を使用する鉄筋は、重ね継手部には半円形フック側を配置すること。

かぶり詳細図 S=1:25



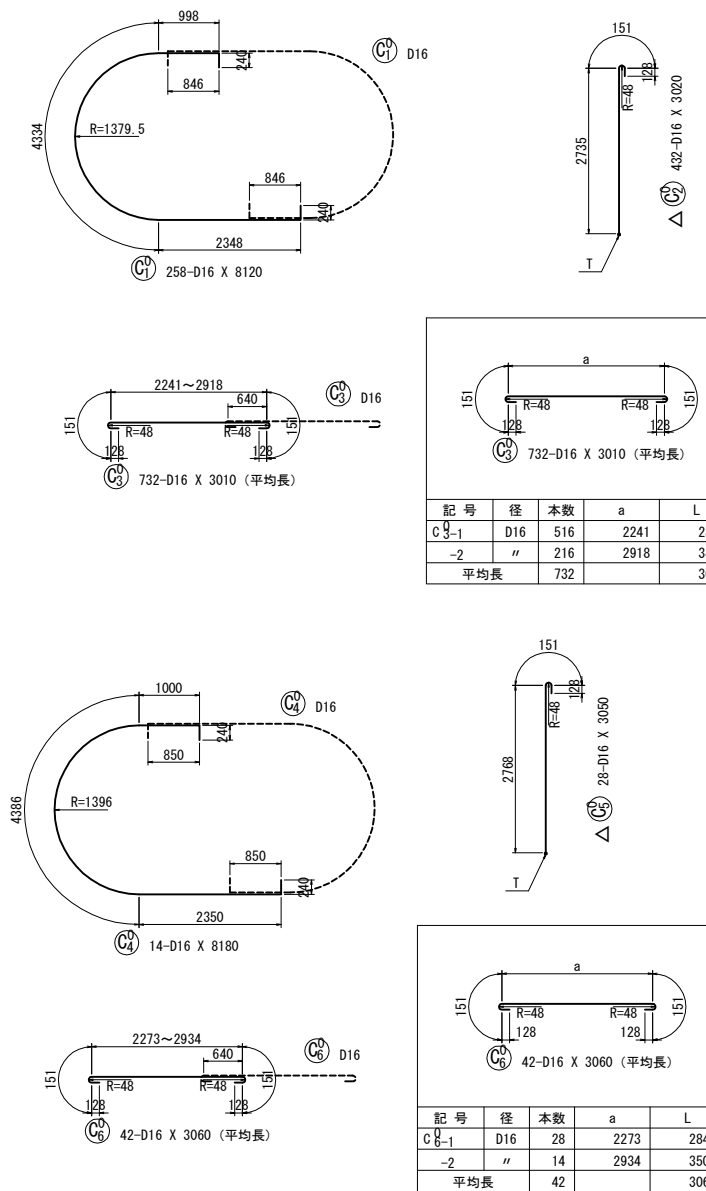
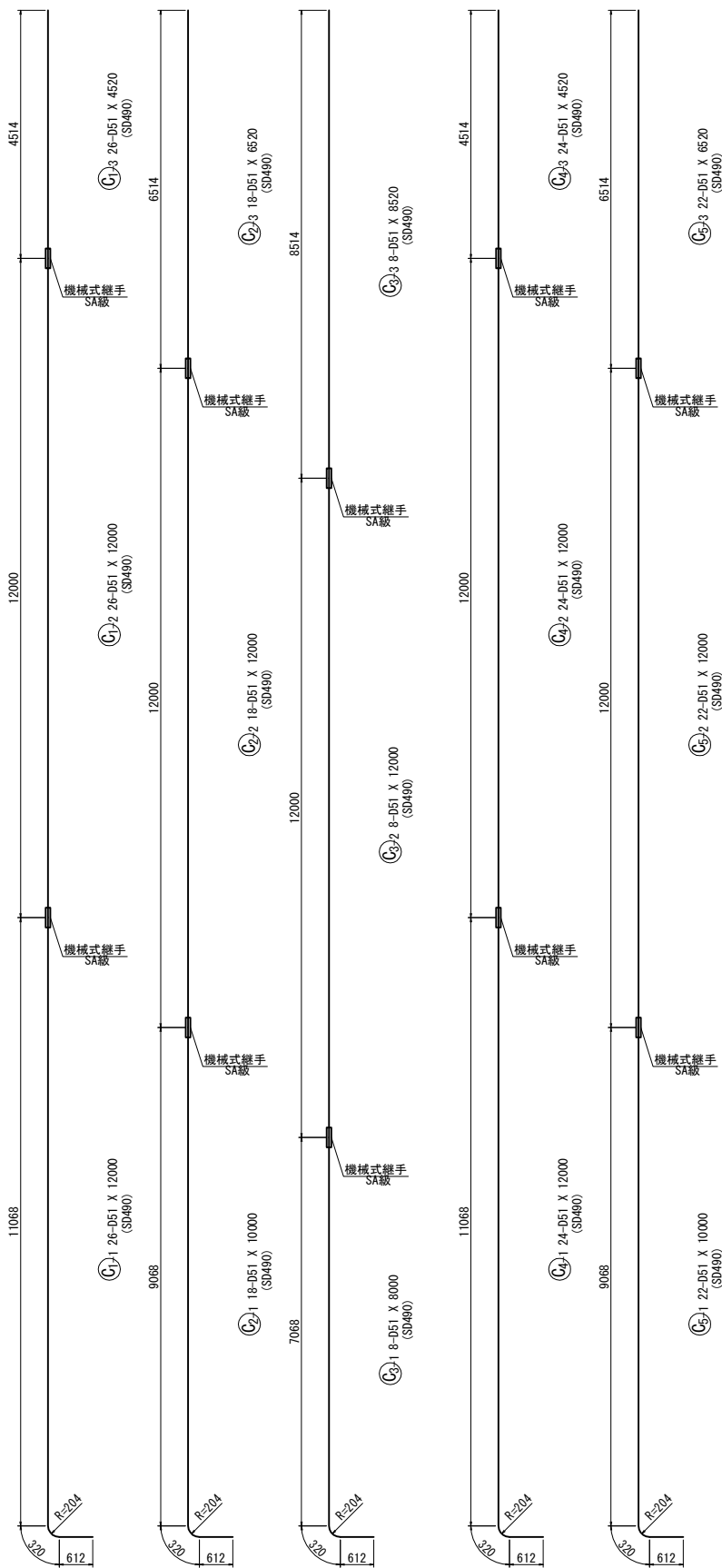
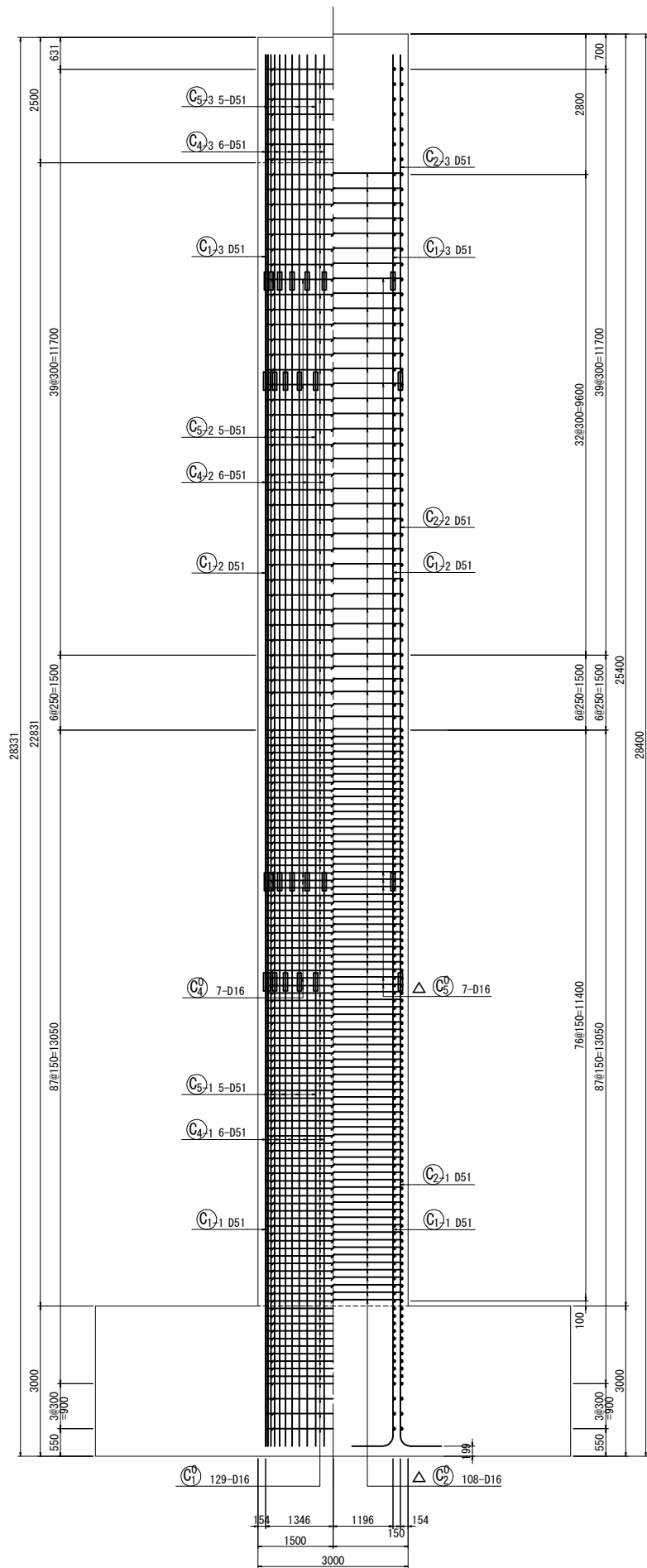
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R7. 10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注3) ◇鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注5) 柱主鉄筋はSD490、それ以外はSD345を使用する。

位置図

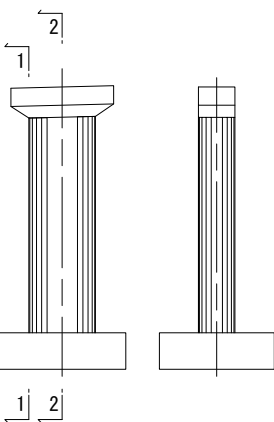


道東自動車道 下 トマム地区 下部工 工事				
図面の種類		トマム跨線橋（下り線） P 3 橋脚配筋図（その 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名		株式会社 建設技術研究所		
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

1-1 2-2



位置図



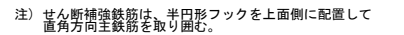
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注3) ◇鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注5) 柱主鉄筋はSD490、それ以外はSD345を使用する。

道東自動車道				
下トマム地区下部工工事				
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 3 橋脚配筋図（その４）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 建設技術研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			



縮尺 1:50



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足することとする。

1. 道路橋示方書・同解説(7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28) 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会

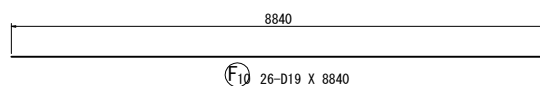
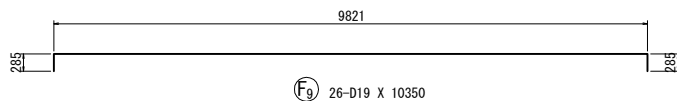
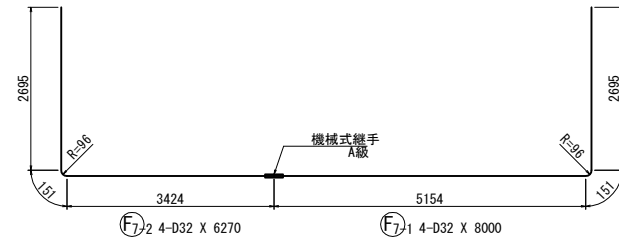
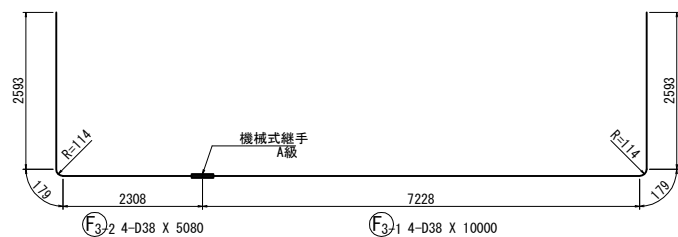
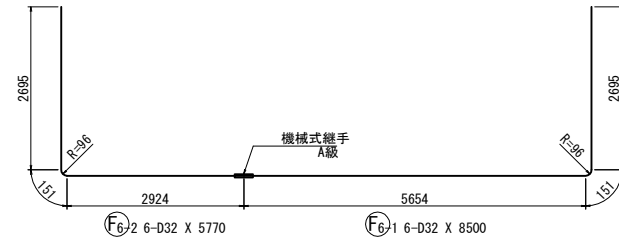
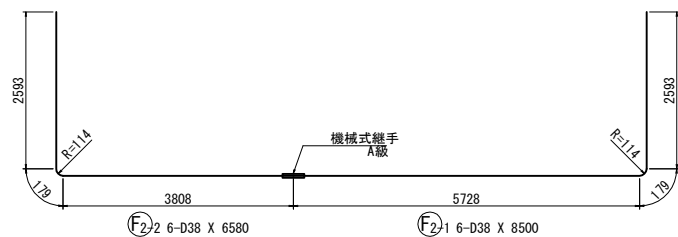
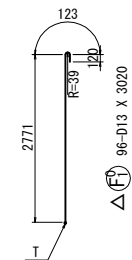
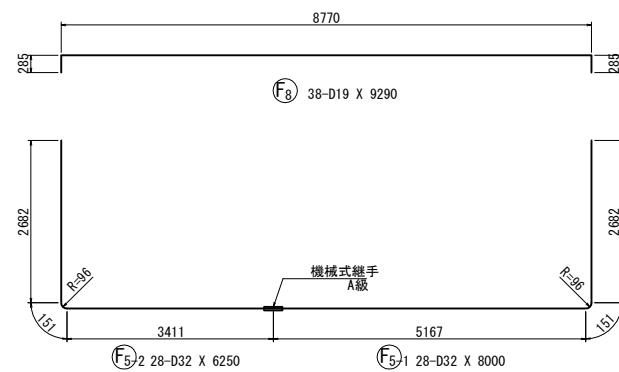
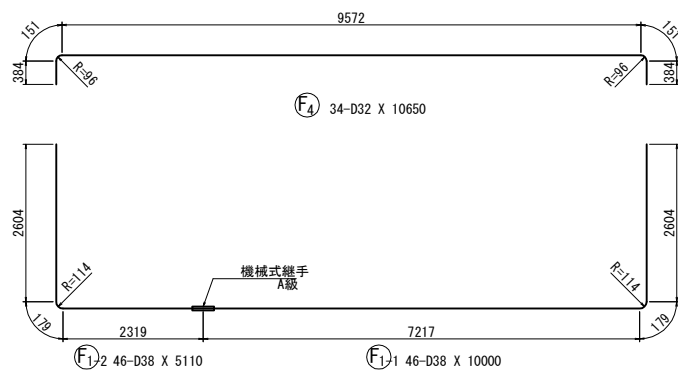
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

注3) △鉄筋はエキスポキ塗装鉄筋を表す。

注4) 鉄筋長は切上りの10mm丸とする。

道東自動車道 下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 3橋脚配筋図（その５）		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(R7.10 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注3) ◇鉄筋はエポキシ塗装鉄筋を表す。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 3 橋脚配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋質量表 SD490							
記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
C 1-1	D51	12000	26	15.9	191	4966	┐ (D) Ⅱ
C 1-2	〃	12000	26	15.9	191	4966	┐ (D) Ⅱ
C 1-3	〃	4520	26	15.9	71.9	1869	┐ Ⅱ
C 2-1	〃	10000	18	15.9	159	2862	┐ (10) Ⅱ
C 2-2	〃	12000	18	15.9	191	3438	┐ (10) Ⅱ
C 2-3	〃	6520	18	15.9	104	1872	┐ Ⅱ
C 3-1	〃	8000	8	15.9	127	1016	┐ (0) Ⅱ
C 3-2	〃	12000	8	15.9	191	1528	┐ (0) Ⅱ
C 3-3	〃	8520	8	15.9	135	1080	┐ Ⅱ
C 4-1	〃	12000	24	15.9	191	4584	┐ (D) Ⅱ
C 4-2	〃	12000	24	15.9	191	4584	┐ (D) Ⅱ
C 4-3	〃	4520	24	15.9	71.9	1726	┐ Ⅱ
C 5-1	〃	10000	22	15.9	159	3498	┐ (D) Ⅱ
C 5-2	〃	12000	22	15.9	191	4202	┐ (D) Ⅱ
C 5-3	〃	6520	22	15.9	104	2288	┐ Ⅱ
44479							
A			B		C		A+B+C
合 計 D51			—		44479 kg		44479 kg
総質量			—		44479 kg		44479 kg

注) () B: 機械継手を示し () 内は箇所数を示す。
() C: 機械式鉄筋定着箇所を示し () 内は箇所数を示す。

鉄筋質量表 SD345							
記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
B 1	D32	10850	16	6.23	67.6	1082	┐
B 2	D22	9560	12	3.04	29.1	349	┐
B 3	〃	3150	2	3.04	9.58	19	┐
B 4	〃	3200	2	3.04	9.73	19	┐
B 5	〃	11820	10	3.04	35.9	359	┐
B 6	〃	10130	6	3.04	30.8	185	┐ (平巻)
2013							
B 0 1	D19	7140	9	2.25	16.1	145	┐ (平巻)
B 0 2	〃	8000	34	2.25	18.0	612	┐
B 0 3	〃	7140	9	2.25	16.1	145	┐ (平巻)
B 0 4	〃	5890	9	2.25	13.3	120	┐ (平巻)
B 0 5	〃	6750	34	2.25	15.2	517	┐
B 0 6	〃	5890	9	2.25	13.3	120	┐ (平巻)
B 0 7	〃	3400	50	2.25	7.65	382	┐
B 0 8	D16	3120	52	1.56	4.87	253	┐ (平巻)
2294							
S 1	D16	2450	16	1.56	3.82	61	┐
S 2	〃	2460	16	1.56	3.84	61	┐
S 3	〃	3250	4	1.56	5.07	20	┐
142							
C 0 1	D16	8120	258	1.56	12.7	3277	┐
C 0 2	〃	3020	432	1.56	4.71	2035	┐ (40) Ⅱ
C 0 3	〃	3010	732	1.56	4.70	3440	┐ (平巻)
C 0 4	〃	8180	14	1.56	12.8	179	┐
C 0 5	〃	3050	28	1.56	4.76	133	┐ (20) Ⅱ
C 0 6	〃	3060	42	1.56	4.77	200	┐ (平巻)
9264							
F 1-1	D38	10000	46	8.95	89.5	4117	┐ (40) Ⅱ
F 1-2	〃	5110	46	8.95	45.7	2102	┐ Ⅱ
F 2-1	〃	8500	6	8.95	76.1	457	┐ (0) Ⅱ
F 2-2	〃	6580	6	8.95	58.9	353	┐ Ⅱ
F 3-1	〃	10000	4	8.95	89.5	358	┐ (0) Ⅱ
F 3-2	〃	5080	4	8.95	45.5	182	┐ Ⅱ
F 4	D32	10650	34	6.23	66.3	2254	┐
F 5-1	〃	8000	28	6.23	49.8	1394	┐ (D) Ⅱ
F 5-2	〃	6250	28	6.23	38.9	1089	┐ Ⅱ
F 6-1	〃	8500	6	6.23	53.0	318	┐ (0) Ⅱ
F 6-2	〃	5770	6	6.23	35.9	215	┐ Ⅱ
F 7-1	〃	8000	4	6.23	49.8	199	┐ (0) Ⅱ
F 7-2	〃	6270	4	6.23	39.1	156	┐ Ⅱ
F 8	D19	9290	38	2.25	20.9	794	┐
F 9	〃	10350	26	2.25	23.3	606	┐
F 10	〃	8840	26	2.25	19.9	517	┐
15111							
F 0 1	D13	3020	96	0.995	3.00	288	┐ (40) Ⅱ
288							
A			B		C		A+B+C
合 計 D38			—		7569 kg		7569 kg
D32			3336 kg		3371 kg		6707 kg
D22			931 kg		—		931 kg
D19			3958 kg		—		3958 kg
D16			7238 kg		2421 kg		9659 kg
D13			—		288 kg		288 kg
総質量			15463 kg		10940 kg		2709 kg
29112 kg							

注) () B: 機械継手とガス圧接継手を示し () 内は箇所数を示す。
() C: 機械式鉄筋定着箇所を示し () 内は箇所数を示す。

鉄筋集計表 SD490				
種 別	径	下部工施工		合計
		H≦25m	H>25m	
A (SD490)	D13	—	—	—
	D16	D16	—	—
		D19	—	—
		D22	—	—
		D25	—	—
	D29	計	—	—
		D29	—	—
		計	—	—
	D32	D32	—	—
		計	—	—
		D35	—	—
		D38	—	—
		D41	—	—
		D51	—	—
B (SD490)	合 計	—	—	—
	D16	D16	—	—
		D19	—	—
		D22	—	—
		D25	—	—
	D29	計	—	—
		D29	—	—
		計	—	—
	D32	D32	—	—
		計	—	—
		D35	—	—
		D38	—	—
		D41	—	—
		D51	44479	44479
C (SD490)	合 計	44479	—	44479
	D13	—	—	—
	D16	D16	—	—
		D19	—	—
		D22	—	—
		D25	—	—
	D29	計	—	—
		D29	—	—
		計	—	—
	D32	D32	—	—
		計	—	—
		D35	—	—
		D38	—	—
		D41	—	—
		D51	—	—
機械継手箇所数 (A級)	合 計	—	—	—
	D29	44479	—	44479
	D32	—	—	—
	D35	—	—	—
	D38	—	—	—
	D41	—	—	—
	D51	—	—	—
	合 計	—	—	—
	D29	—	—	—
	D32	—	—	—
	D35	—	—	—
	D38	—	—	—
	D41	—	—	—
	D51	—	—	—
	合 計	196	—	196
合 計		196	—	196

鉄筋集計表 SD345				
種 別	径	下部工施工		合計
		H≦25m	H>25m	
A (SD345)	D13	—	—	—
	D16	D16	7238	7238
		D19	3958	3958
		D22	931	931
	D25	D25	—	—
		計	12127	12127
		D29	—	—
		計	—	—
	D32	D32	3336	3336
		計	3336	3336
		D35	—	—
		D38	—	—
		D41	—	—
		D51	—	—
B (SD345)	合 計	15463	—	15463
	D16	—	—	—
	D19	—	—	—
	D22	—	—	—
	D25	—	—	—
	計	—	—	—
	D29	—	—	—
	計	—	—	—
	D32	3371	—	3371
	計	3371	—	3371
	D35	—	—	—
	D38	7569	—	7569
	D41	—	—	—
	D51	—	—	—
C (SD345)	合 計	10940	—	10940
	D13	288	—	288
	D16	2421	—	2421
	D19	—	—	—
	D22	—	—	—
	D25	—	—	—
	計	2421	—	2421
	D29	—	—	—
	計	—	—	—
	D32	—	—	—
	D35	—	—	—
	D38	—	—	—
	D41	—	—	—
	D51	—	—	—
機械継手箇所数 (A級)	合 計	2709	—	2709
	総 質量	29112	—	29112
	D29	—	—	—
	D32	38	—	38
	D35	—	—	—
	D38	56	—	56
	D41	—	—	—
	D51	—	—	—
	合 計	94	—	94

鉄筋加工寸法表

主 筋

せん断補強筋

鋭角フック

半半径フック

直角フック

$\Delta L = 2L - a$

主
筋

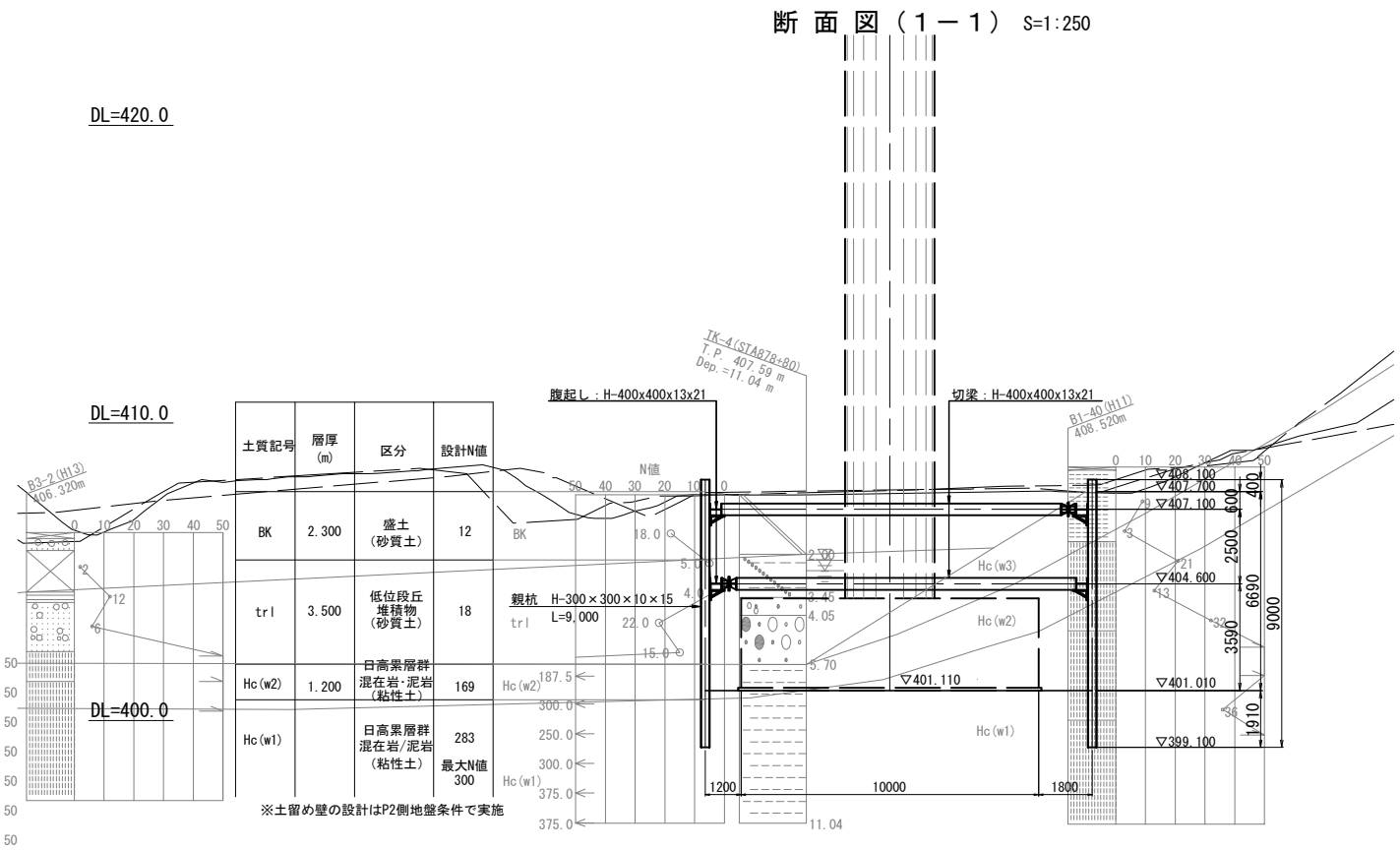
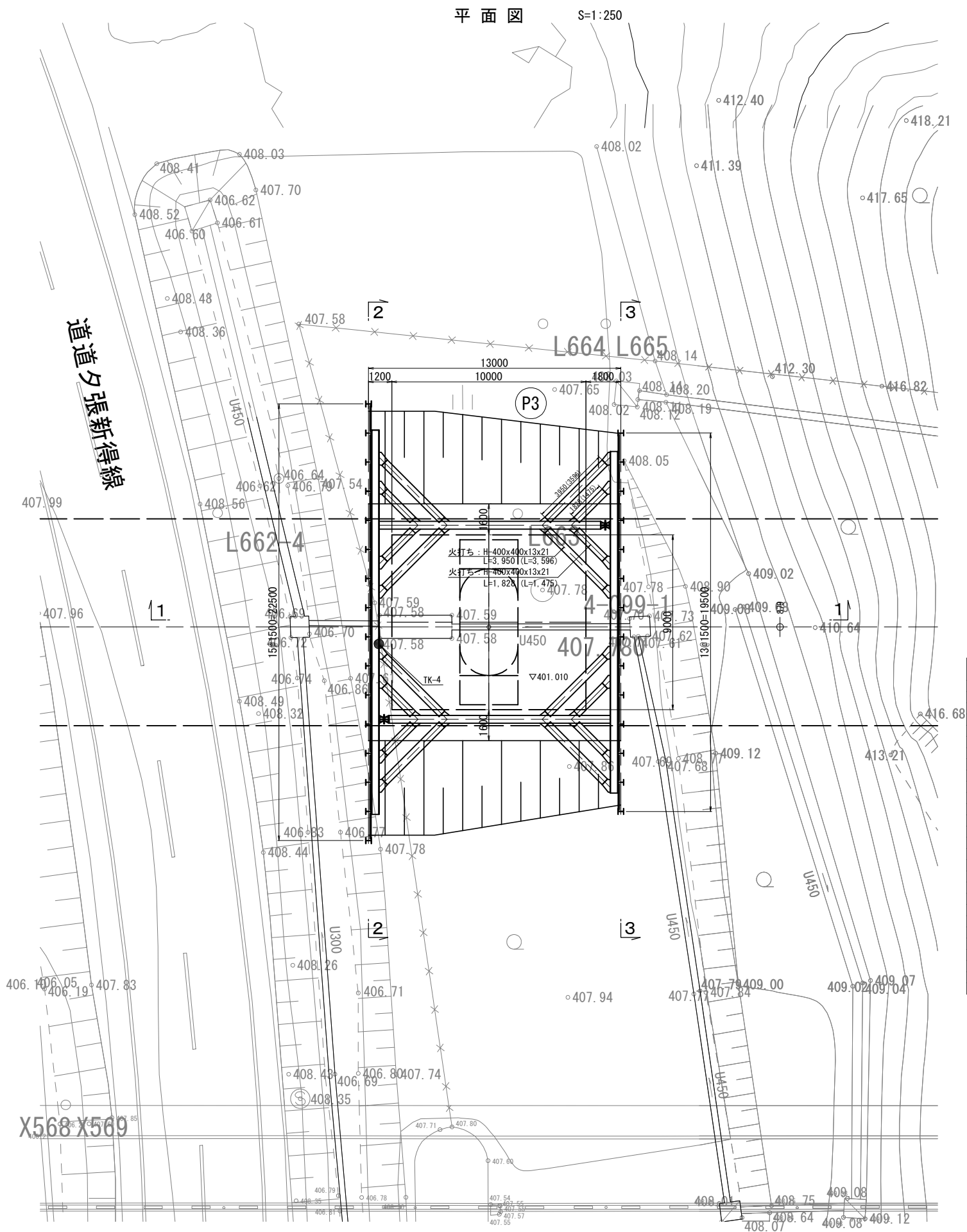
径	$\theta \leq 90^\circ$ $R=3.0\phi$	$\theta > 90^\circ$ $R=5.5\phi$	$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$	
			a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D13	39	71.5	92	96	102	53	61	17	56	3
D16	48	88	113	119	120	66	75	21	69	4
D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12

せん断補強筋及び帯鉄筋

径	$R=2.5\phi$	$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		
		a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	
D13	32.5	77	80	68	45	51	14	—
D16	40	94	99	84	55	63	17	—
D19	47.5	112	117	99	66	75	20	—
D22	55	130	136	115	76	86	24	—
D25	62.5	147	155	131	86	98	27	—
D29	72.5	171	179	152	99	114	31	—
D32	80	188	198	168	110	126	34	—

フック

径	$R=3.0\phi$	鋭角フック	半半径フック	直角フック	
		a	a	a	ΔL
D13	39	92	123	61	17
D16	48	113	151	75	21
D19	57	134	179	89	25
D22	66	156	207	104	28
D25	75	177	236	118	32
D29	87	205	273	137	37
D32	96	226	302	151	41



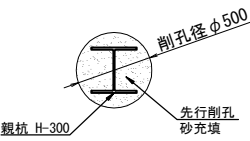
材料表

種別	仕様	長さ (m)	数量 (本)	単位質量 (kg/本)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	適用
親杭	H-300×300×10×15	9.000	22	93.0	837.0	18,414	SS400杭材(撤去)
	H-300×300×10×15	7.500	8	93.0	697.5	5,580	〃
横矢板	木矢板 t=60mm	1.320×161.400=213.0㎡			杭材質量	23,994	〃
主部材							
腹起し	H-400×400×13×21	19.800	1	200	3,960.0	3,960	SS400リース加工材
	H-400×400×13×21	17.800	1	200	3,560.0	3,560	〃
	H-400×400×13×21	16.800	1	200	3,360.0	3,360	〃
	H-400×400×13×21	14.800	1	200	2,960.0	2,960	〃
切梁	H-400×400×13×21	11.400	4	200	2,280.0	9,120	SS400リース加工材
火打ち	H-400×400×13×21	3.950	8	200	790.0	6,320	SS400リース加工材
	H-400×400×13×21	3.596	8	200	719.2	5,754	〃
	H-400×400×13×21	1.828	8	200	365.6	2,925	〃
	H-400×400×13×21	1.475	8	200	295.0	2,360	〃
					主部材合計	40,319	
副部材							
カバープレート H-400用			28		40.0	1,120	SS400リース加工材
火打受ベース H-400用			32		110.0	3,520	〃
キリンジャッキ H-400用			4		210.0	840	
ジャッキカバー H-400用			8		100.0	800	
ジャッキハンドル			1		6.0	6	
					副部材合計	6,286	
消耗部材							
主部材質量×0.04						1,613	

数量表

工程	項目	単位	数量	適用
親杭H-300	削孔長 砂充填長 φ500mm	最大N値 300	L= 8.60 m	本 22 杭長 9.00 m
			L= 7.10 m	本 8 杭長 7.50 m

親杭平面図 S=1:50

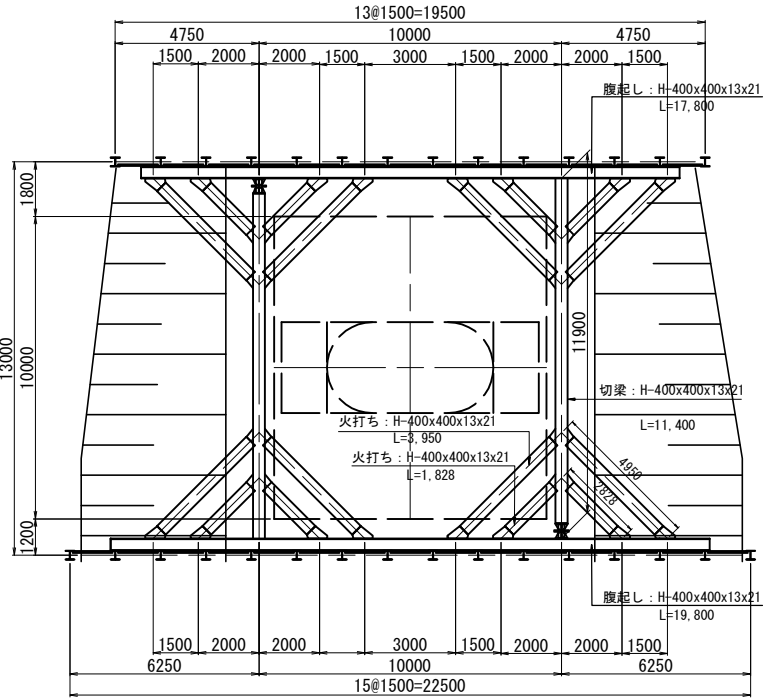
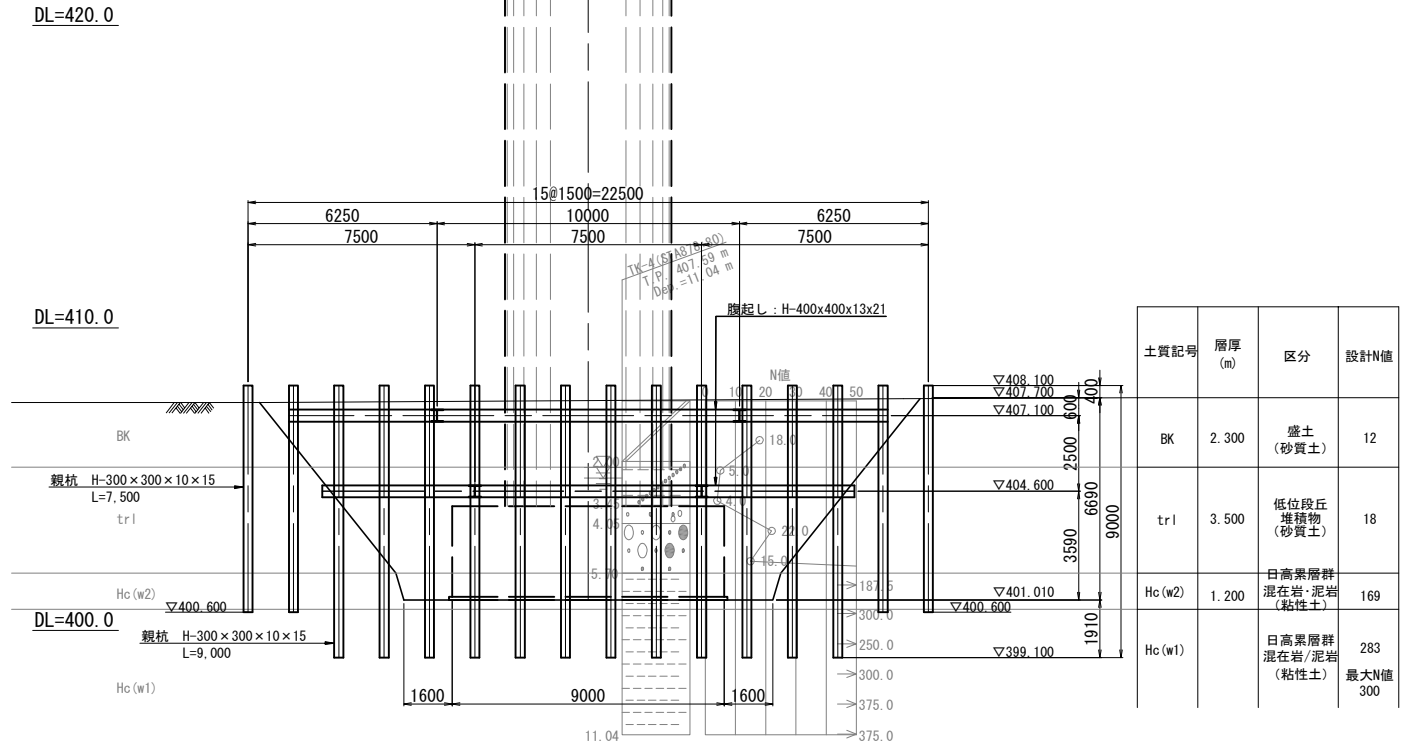


道東自動車道 下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 3 橋脚土留工構造図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

※図中火打ち寸法の（ ）内は2段目の数値を表す。

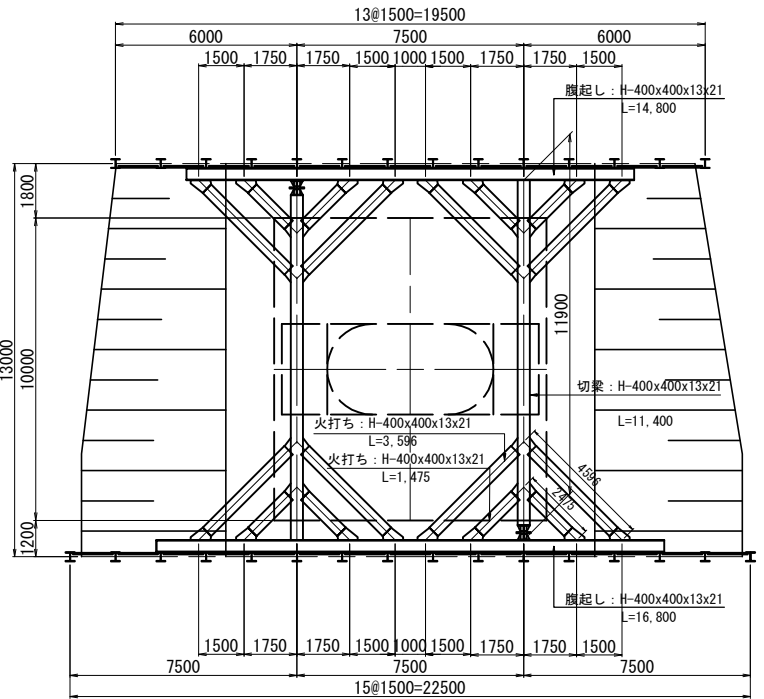
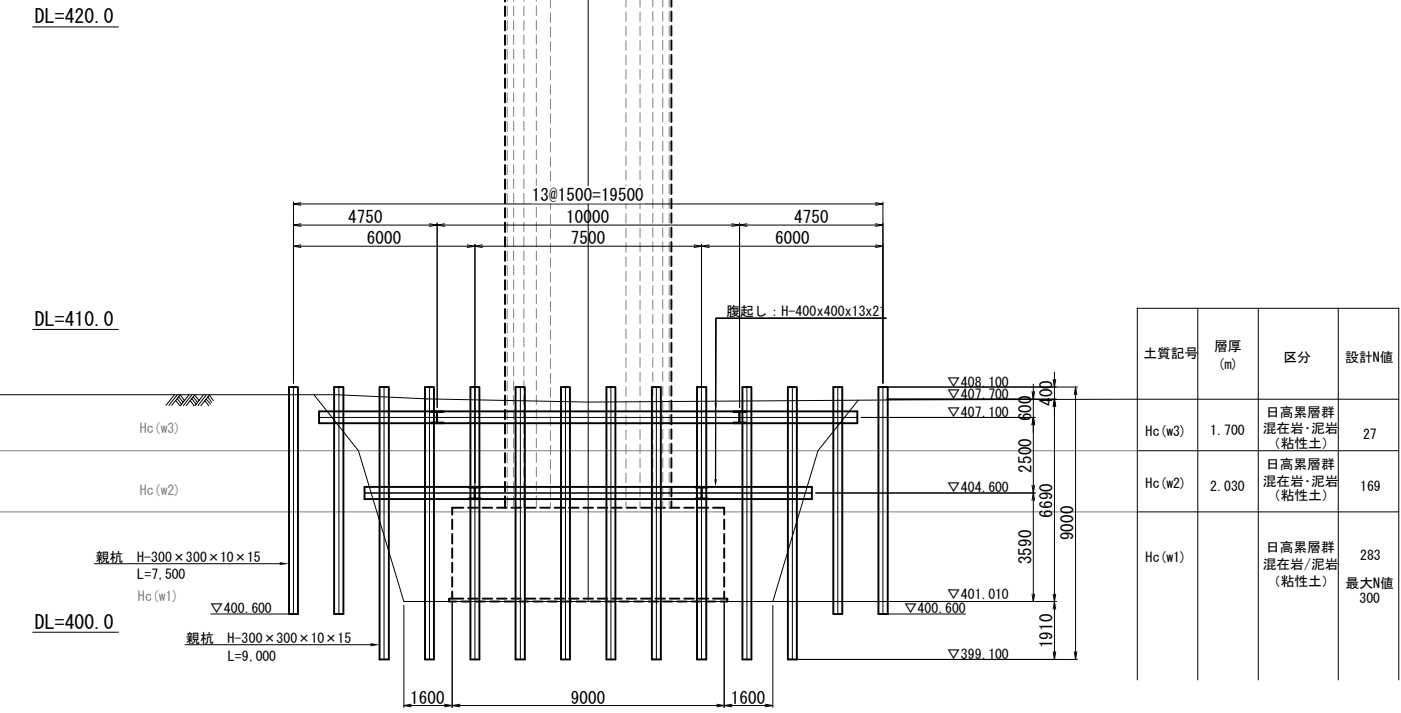
断面図（2-2）

支保工配置図（1 段目）



断面図（3-3）

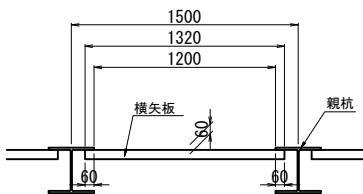
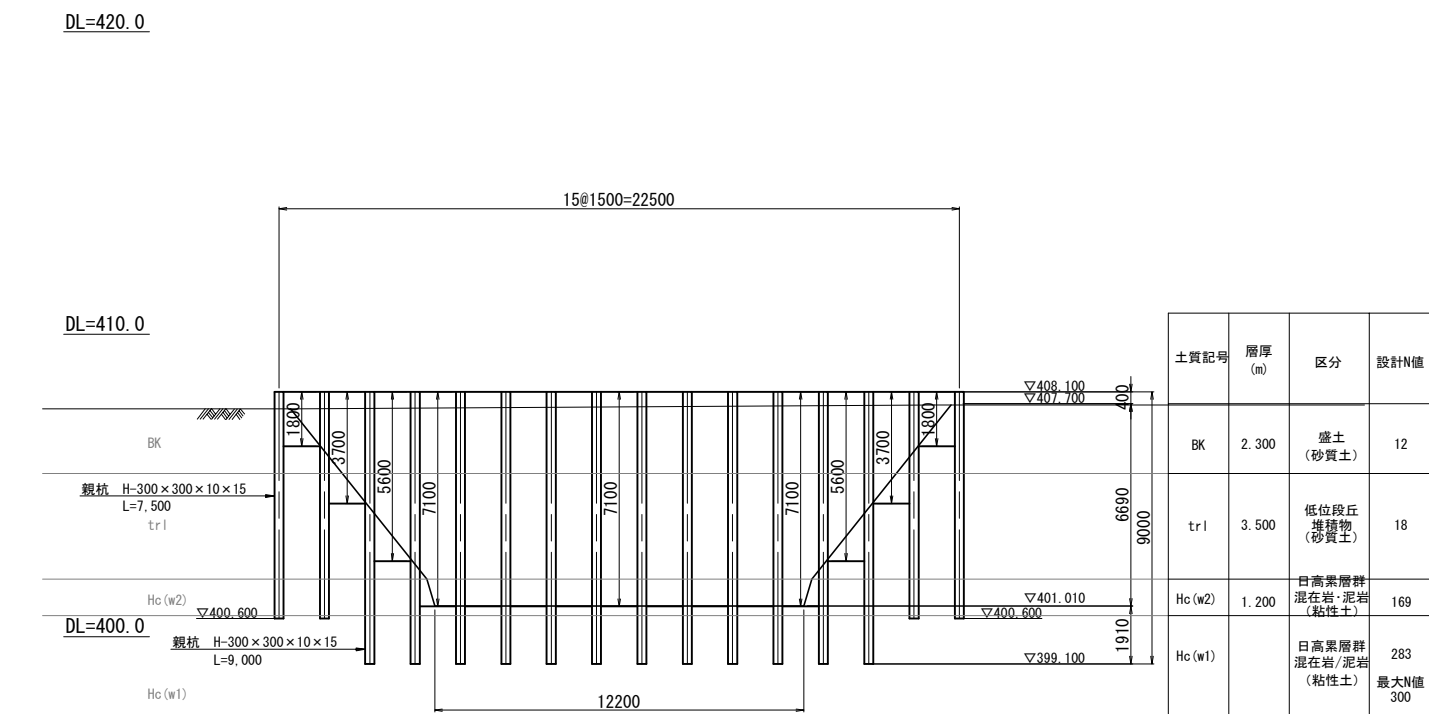
支保工配置図（2 段目）



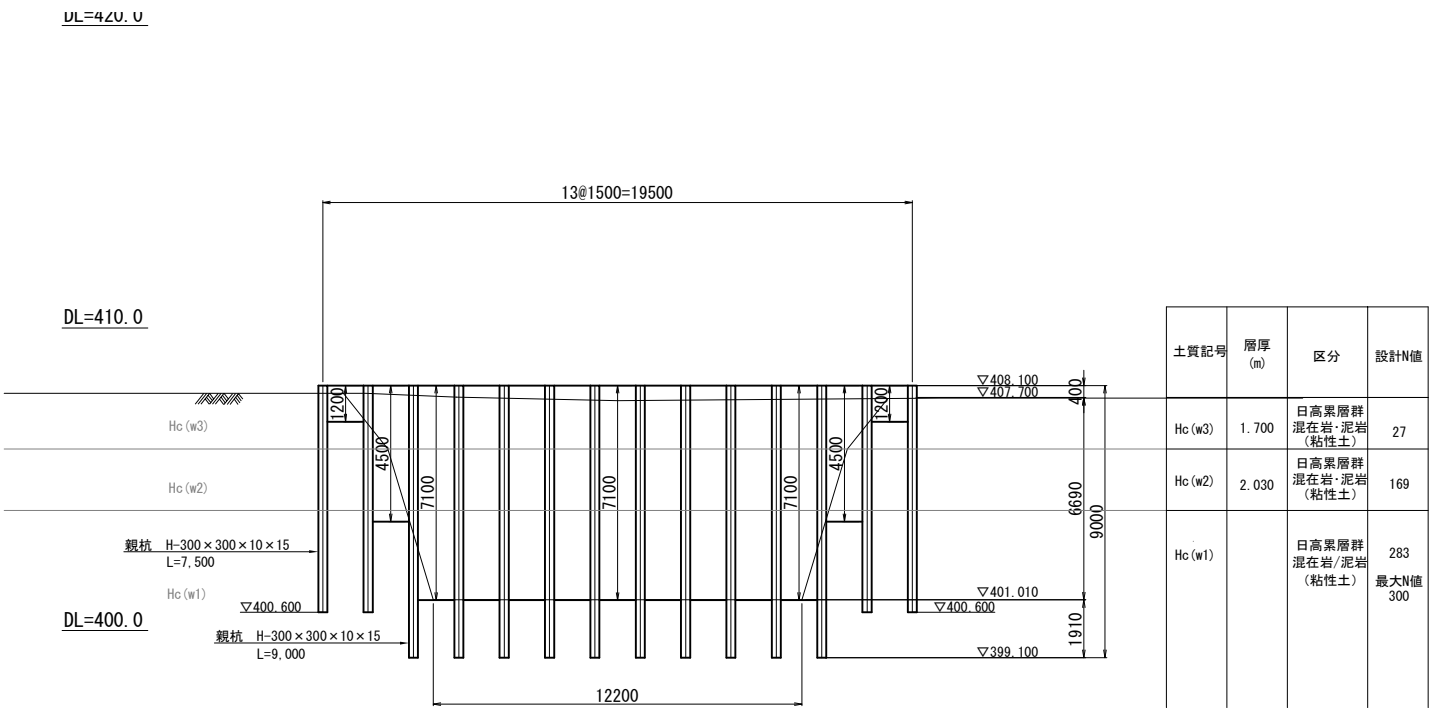
道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 3 橋脚土留工構造図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

横矢板配置図（2－2） S=1:250

横矢板取付図 S=1:50



横矢板配置図（3－3） S=1:250



道東自動車道			
下トマム地区下部工工事			
図面の種類	トマム跨線橋（下り線） P 3 橋脚土留工構造図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		